

史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書第Ⅴ集

史跡妻木晩田遺跡仙谷墳丘墓群発掘調査報告書

－第 25・26・27・29・30・31 次調査－

2017年3月

鳥取県教育委員会



仙谷墳丘墓群近景 北西から



仙谷8号墓 北西から



1 仙谷8号墓埋葬施設 検出状況 西から



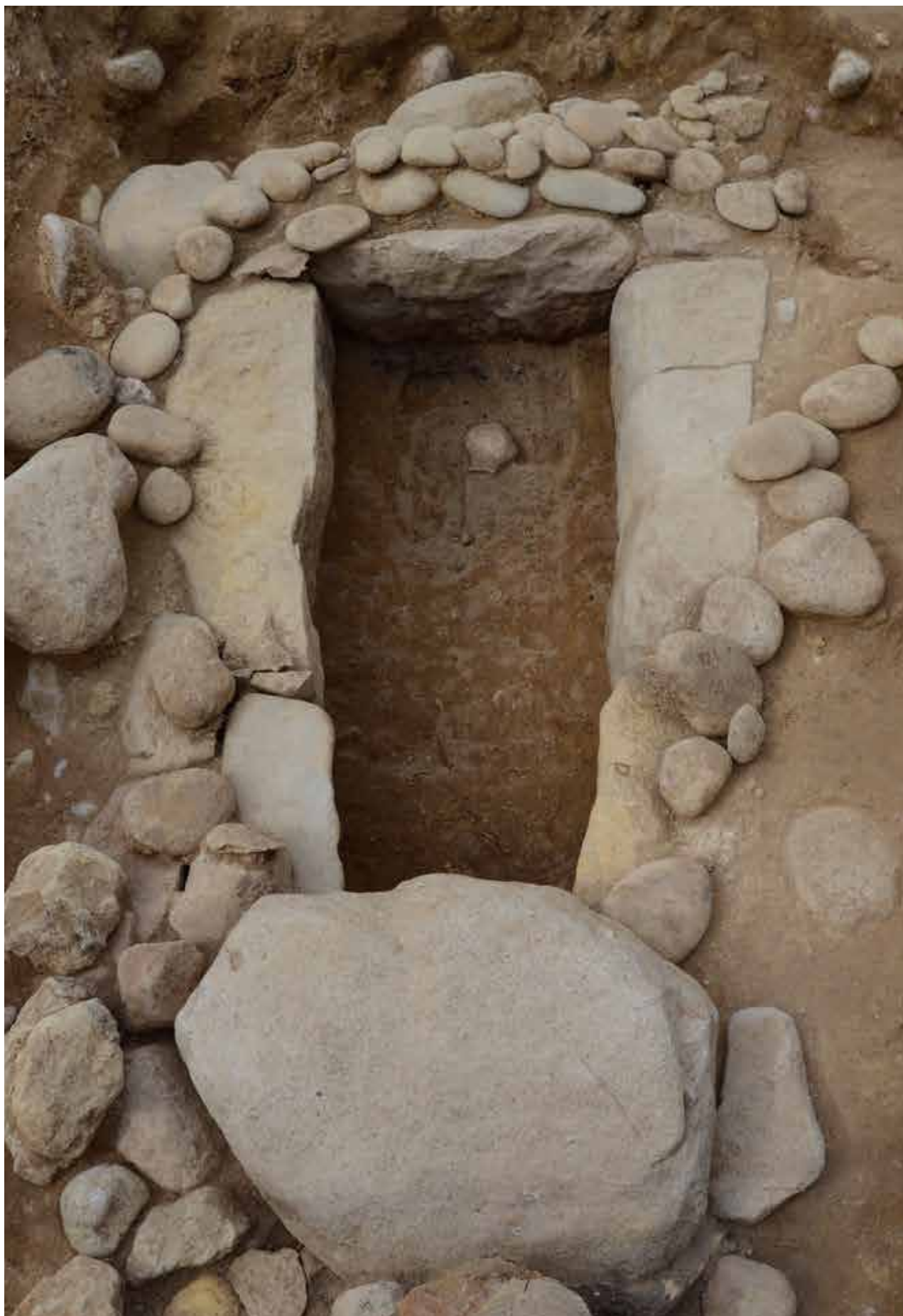
2 仙谷8号墓埋葬施設 調査終了状況 西から



仙谷 8 号墓埋葬施設 検出状況 北西から



仙谷 8 号墓埋葬施設 棺底検出状況 北西から



仙谷 8 号墓埋葬施設 棺底 頭骨出土状況 南東から

序

中国地方の最高峰、霊峰大山の麓に広がる史跡^{むきぼんだ}妻木晩田遺跡は、弥生時代の集落の全体像やその変遷を知ることのできる貴重な遺跡です。その重要性に鑑みて、平成11年12月に約150ヘクタールに及ぶ範囲が国史跡として指定されました。

鳥取県教育委員会では、妻木晩田遺跡に暮らした人々の生活を具体的に考えるために、平成12年度から発掘調査を行ってきました。その成果については報告書やシンポジウム、展示などで皆様に御紹介してきたところです。

本報告書は、平成22年度から平成27年度にかけて行った仙谷^{せんたに}地区の発掘調査報告です。仙谷地区では、首長層の墓域である仙谷墳丘墓群^{せんたにふんきゅうぼく}の様相解明を目指し、発掘調査を行いました。調査の結果、集落最終段階に築かれたと考えられる墳丘墓である仙谷8号墓及び9号墓を新たに発見しました。特に仙谷8号墓の調査では、妻木晩田遺跡の墳丘墓埋葬施設としては初めて石棺^{せつかん}が確認されるなど、集落における首長墓の移り変わりを考えるための多くの手がかりを得ることができました。このような調査、研究の積み重ねが、妻木晩田遺跡そして地域の歴史を解き明かしていく一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本調査に多大な御理解と御協力をいただいた地元関係者の方々をはじめ、御指導、御助言を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます。

平成29年3月

鳥取県教育委員会

教 育 長 山 本 仁 志

例言

- 1 本書は、平成 22 年度から 27 年度に、国庫補助金を受けて鳥取県立むきばんだ史跡公園が行った発掘調査（史跡妻木晩田遺跡第 25～27・29～31 次発掘調査、仙谷地区）の記録である。
- 2 本発掘調査地は、鳥取県西伯郡大山町富岡字仙谷、笹子谷、山根に所在する。
- 3 本書における方位、座標値は、国土座標系第 V 系（日本測地系）により、標高は海拔高で表す。
- 4 第 25～27・29 次発掘調査における調査前・調査後の地形測量（基準点打設、水準・方眼測量含む）、航空写真撮影については、それぞれ業者に委託して行った。遺跡での図面作成は調査担当者が行った。
- 5 第 30・31 次発掘調査は株式会社島田組に現地調査の支援を委託した。調査前・後の地形測量、遺構図面作成、航空写真の撮影は、鳥取県立むきばんだ史跡公園の指示のもと、株式会社島田組が行った。
- 6 遺構の写真撮影は、鳥取県立むきばんだ史跡公園の文化財主事が行った。
- 7 調査で作成した図面の再編集、遺物の実測及び浄書は、鳥取県立むきばんだ史跡公園の文化財主事及び整理作業員が行った。
- 8 遺物の写真撮影は、鳥取県立むきばんだ史跡公園の文化財主事が行った。
- 9 本発掘調査の記録類及び出土資料は、鳥取県立むきばんだ史跡公園において保管している。
- 10 仙谷墳丘墓群内容確認調査及び仙谷 1 号墓の発掘調査（第 25・26・27 次調査）の成果については、鳥取県立むきばんだ史跡公園編 2011～2013『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2010～2012』に報告している。仙谷 8・9 号墓の発掘調査（第 26・27・29～31 次調査）の成果については、鳥取県立むきばんだ史跡公園編 2012～2016『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2011～2015』において概要を報告しているが、本書をもって正式な報告とする。
- 11 本書の執筆と編集は第 V 章第 2～8 節を除き長尾が行った。第 V 章第 2～6 節は、分析委託業者が執筆した原稿を論旨に影響しない範囲で語句の統一、編集を行なったうえで掲載した。第 V 章第 7 節は近藤修氏他、第 8 節は小林和貴氏他に御寄稿いただいた。また、第 VI 章第 2・3 節は長尾と株式会社島田組の植野良子が共同で執筆した。
- 12 発掘調査及び報告書作成にあたり、下記の方々から御指導、御助言をいただいた。記して感謝申し上げます（敬称略、所属・肩書きは当時）。
李素妍（鳥取大学）、岡田昭明（鳥取大学名誉教授）、北浩明（財団法人鳥取県教育文化財団）、君嶋俊行（鳥取県埋蔵文化財センター）、桑原隆博（三次市教育委員会）、近藤修（東京大学）、高田健一（鳥取大学）、富田健吉（鳥取県自然観察指導員）、平郡達哉（島根大学）、矢野孝雄（鳥取大学）、湯村功（鳥取県立公文書館）、米田穰（東京大学）

凡例

- 1 本報告における遺構番号は、第1次発掘調査からの通し番号である。
- 2 遺物カード及び遺物の注記等に用いた本発掘調査の略号は、「25ST」、「26ST」、「27ST」、「29ST」、「30ST」、「31ST」である。数字は調査回数、STは仙谷地区の略号である。
- 3 遺物の取上番号は、調査回数に通し番号を付し、遺物カード等に記録している。
- 4 本報告書に使用した地図は、西伯郡大山町作成の地形測量図並びに米子市作成の都市計画基本図（1/2500）を縮小、合成し、加筆したもの及び、国土地理院発行『数値地図25000（地図画像）』から抜粋したものである。
- 5 本報告書に示した土層の土色は、小山正忠・竹原秀雄著『新版標準土色帖』2005年度版に基づき、命名したものである。土中含有物の大きさについては、土層観察用哇の観察面で視認できるものの径を記した。
- 6 妻木晩田遺跡の調査における弥生時代の時期区分は、I期＝前期、II～IV期＝中期、V期＝後期、VI期＝終末期（畿内庄内式併行期）と表す。詳細は編年対照表を参照されたい。

編年対照表

松本他	清水	松井	辻	高尾	濱田	濱田	牧本	妻木晩田遺跡 時期区分		
2000	1992	1997	1999	2008	2009	2016	1999			
	I -1 様式					I		弥生時代前期	I	1
	I -2 様式					2	2			
	I -3 様式					3	3			
	II -1・2 様式					4	4			
	III -1 様式			III -1		II		弥生時代中期前葉	II	
	III -2 様式	西伯耆 I	III -1 期	III -2		III	1	弥生時代中期中葉	III	1
	III -3 様式	西伯耆 II	III -2 期	III -3		2	2			
1 期	IV -1 様式	西伯耆 III	IV -1a 期	IV -1		3	3			
2 期	IV -2 様式	西伯耆 IV	IV -1b 期	IV -2 (古)・ IV -2 (新)		IV	1	弥生時代中期後葉	IV	1
3 期	IV -3 様式		IV -2 期				2			2
4 期	V -1 様式	西伯耆 V				3	3			
5 期					1 期		1	弥生時代後期前葉		1
6 期	V -2 様式	西伯耆 VI			2 期					
7・(8) 期					3 期	V	2	弥生時代後期中葉	V	2
(8)・9 期	V -3 様式	西伯耆 VII			4 期					
		西伯耆 VIII・IX			5 期		3			弥生時代後期後葉
10 期	VI -1 様式	西伯耆 X			6 期			弥生時代終末期前半	VI	
11 期	VI -2 様式	西伯耆 XI			7 期	VI	1			1
12 期		西伯耆 XII			8 期		2	弥生時代終末期後半		2
13 期		西伯耆 XIII			9 期					
					10 期	VII	1	天神川 II		古墳時代前期前葉

清水真一 1992「因幡 伯耆地域」『弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編』木耳社

松井 潔 1997「東の土器、南の土器」『古代吉備』19、古代吉備研究会

辻 信広 1999「弥生時代中期中～後葉の土器について」『茶畑山道遺跡』名和町教育委員会

牧本哲雄 1999「第1節 古墳時代の土器について」『長瀬高浜遺跡Ⅷ園第6遺跡』（財）鳥取県教育文化財団

松本哲他 2000「第4章 第1節 土器の分類と編年」『妻木晩田遺跡発掘調査報告Ⅳ』大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・大山町教育委員会

高尾浩司 2008「山陰地方東部における弥生時代中期の土器編年－大山山麓地域を中心に－」『地域・文化の考古学－下條信行先生退任記念論文集』下條信行先生退任記念事業会

濱田竜彦 2009「山陰地方の弥生集落像」『国立歴史民俗博物館研究報告』第149集、国立歴史民俗博物館

濱田竜彦 2016「西伯耆地域」『集落動態からみた弥生時代から古墳時代への社会変化』古代学研究会

史跡妻木晩田遺跡仙谷墳丘墓群発掘調査報告書
—第 25・26・27・29・30・31 次調査—

目 次

序
例言
凡例

第 I 章	妻木晩田遺跡の位置と環境……………(長尾)	
第 1 節	妻木晩田遺跡の位置……………	1
第 2 節	地理的環境……………	1
第 3 節	歴史的環境……………	2
第 II 章	発掘調査に至る経緯……………(長尾)	
第 1 節	発掘調査の経緯……………	7
第 2 節	発掘調査の課題と計画……………	7
第 3 節	妻木晩田遺跡発掘調査委員会の記録……………	14
第 4 節	妻木晩田遺跡発掘調査委員会・調査体制……………	18
第 III 章	仙谷墳丘墓群 発掘調査の方法と経過……………(長尾)	
第 1 節	仙谷墳丘墓群の調査概要……………	21
第 2 節	発掘調査区の設定……………	21
第 3 節	発掘調査の記録……………	23
第 4 節	第 25・26・27 次調査－仙谷墳丘墓群確認調査・仙谷 1 号墓 ……	24
第 5 節	第 26・27・29・30・31 次調査－仙谷 8 号墓・仙谷 9 号墓 ……	27
第 IV 章	仙谷 8 号墓・仙谷 9 号墓の発掘調査成果……………(長尾)	
第 1 節	調査前の状況……………	33
第 2 節	基本層序……………	36
第 3 節	仙谷 8 号墓の調査……………	37
第 4 節	仙谷 9 号墓の調査……………	58

第V章 自然科学分析の成果

- 第1節 自然科学分析の概要…………… (長尾) 69
- 第2節 第27次調査に伴う自然科学分析…………… (パリノ・サーヴェイ株式会社) 71
- 第3節 第29次調査出土炭化材の放射性炭素年代測定…………… (パリノ・サーヴェイ株式会社) 80
- 第4節 第30次調査出土炭化材及び炭化種実の
放射性炭素年代測定…………… (パリノ・サーヴェイ株式会社) 82
- 第5節 第31次調査出土炭化材の樹種同定
及び放射性炭素年代測定…………… (パリノ・サーヴェイ株式会社) 85
- 第6節 仙谷8号墓棺内堆積物及び基盤層砂粒組成分析…………… (パリノ・サーヴェイ株式会社) 89
- 第7節 妻木晩田遺跡仙谷8号墓出土の人骨片について…………… (近藤、小林) 94
- 第8節 妻木晩田遺跡仙谷地区出土銅銭の紐の素材植物…………… (小林、佐々木、能城、鈴木) 99

第VI章 仙谷8号墓埋葬施設の復元

- 第1節 復元作業の経緯と作業前の状況…………… (長尾) 103
- 第2節 石材の復元…………… (長尾、植野) 103
- 第3節 墓壙の埋め戻し…………… (長尾、植野) 106

第VII章 総括…………… (長尾)

- 第1節 墳丘墓群の変遷について…………… 107
- 第2節 仙谷8号墓の評価…………… 116

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第 I 章	第 27 図	北側区画溝土層断面図	48		
第 1 図	妻木晩田遺跡の位置	1	第 28 図	仙谷 8 号墓	49
第 2 図	妻木晩田遺跡周辺の地形	2	第 29 図	埋葬施設 石材名称概略図	49
第 3 図	妻木晩田遺跡周辺の遺跡	4	第 30 図	埋葬施設 石材取り外し手順	50
第 II 章	第 31 図	墓壙底面に見られる地山礫の調整 北西から	51		
第 4 図	妻木晩田遺跡調査区位置図	11	第 32 図	墓壙底面に見られる北側小口石を固定する ための溝 南から	51
第 III 章	第 33 図	埋葬施設	52		
第 5 図	仙谷墳丘墓群 調査区位置図	22	第 34 図	埋葬施設土層断面	53
第 6 図	仙谷 1 号墓 調査範囲 (試掘調査・第 27 次調査)	25	第 35 図	側石 a 南西から	54
第 7 図	仙谷 1 号墓 調査状況 東から	25	第 36 図	側石 b 北東から	54
第 8 図	仙谷 1 号墓 貼石検出作業風景	25	第 37 図	側石 c 西から	54
第 9 図	仙谷 1 号墓 出土土器 (試掘調査・第 27 次調査)	26	第 38 図	側石 d (上段)・側石 e (下段) 北東から	54
第 10 図	仙谷 8 号墓 調査前 北西から	27	第 39 図	側石 c 表面の加工調整痕	54
第 11 図	第 2 次調査 仙谷 8 号墓南北トレンチ 調査終了状況 南から	27	第 40 図	蓋石間及び蓋石下の間詰石 北東から	55
第 12 図	第 2 次調査 北側区画溝 調査終了状況 東から	27	第 41 図	蓋石 A 北側の間詰石 北から	55
第 13 図	第 2 次調査 埋葬施設 調査終了状況 北西から	27	第 42 図	蓋石 A 北西隅に乗る石材 (平成 23 年撮影) 北東から	56
第 14 図	第 26 次調査	28	第 43 図	蓋石 A に見られる縞状の流理構造	56
第 15 図	第 29 次調査	29	第 44 図	棺内の埋土掘り下げ作業	57
第 16 図	第 30 次調査 第 2 回現地説明会	31	第 45 図	蓋石 A の取り外し作業	57
第 IV 章	第 46 図	仙谷 9 号墓	59		
第 17 図	仙谷地区西側丘陵地形測量図	33	第 47 図	仙谷 9 号墓南北縦断面図・東西横断面図	60
第 18 図	仙谷 8・9 号墓調査前地形測量図	34	第 48 図	出土遺物	62
第 19 図	第 2・26・27・29 次調査トレンチ配置	35	第 49 図	仙谷 9 号墓土層断面図 1	63
第 20 図	仙谷 8・9 号墓周辺調査後地形測量図	38	第 50 図	仙谷 9 号墓土層断面図 2	65
第 21 図	仙谷 8 号墓南北縦断面図	39	第 51 図	第 2 溝状遺構	67
第 22 図	仙谷 8 号墓東西横断面図	40	第 52 図	第 4 土坑	68
第 23 図	仙谷 8 号墓土層断面図 1	41	第 V 章		
第 24 図	仙谷 8 号墓土層断面図 2	43	第 53 図	分析試料採取位置	70
第 25 図	埋葬施設土層断面図	46	第 54 図	分析試料写真と分析層準	72
第 26 図	南側区画溝・埋葬施設土層断面図	47	第 55 図	暦年較正結果	74
			第 56 図	重鉍物組成及び火山ガラス比	75
			第 57 図	火山ガラスの屈折率	75
			第 58 図	X 線写真	76

第59図	土壤薄片画像	77	第80図	資料の採取位置	99
第60図	土壤薄片顕微鏡画像	77	第81図	紐の同定及び観察結果(1)	101
第61図	重鉍物・火山ガラス	78	第82図	紐の同定及び観察結果(2)	102
第62図	暦年較正結果	81			
第63図	暦年較正結果	83	第VI章		
第64図	仙谷8号墓出土植物質炭化物の年代値	83	第83図	埋葬施設の復元	105
第65図	炭化材	86			
第66図	炭化材の暦年較正結果	87	第VII章		
第67図	仙谷8号墓埋葬施設内堆積物の砂粒組成	90	第84図	洞ノ原墳丘墓群	109
第68図	仙谷8号墓埋葬施設砂粒(1)	92	第85図	仙谷2・3・5号墓	110
第69図	仙谷8号墓埋葬施設砂粒(2)	93	第86図	仙谷4・6・7号墓	111
第70図	仙谷8号墓埋葬施設砂粒(3)	94	第87図	仙谷2・3・5号墓	
第71図	仙谷8号墓出土人骨(外表面、内表面)	97		第1埋葬施設出土土器	112
第72図	仙谷8号墓出土人骨CT撮影後の		第88図	松尾頭墳丘墓群	113
	3次元データ	97	第89図	埋葬施設 築造過程	116
第73図	欠損部を補完して復元した前頭骨モデル	97	第90図	妻木晩田遺跡における集落の変遷	117
第74図	復元モデル上の座標値	98	第91図	仲仙寺10号墓	118
第75図	Centroid sizeによる日本人の性差	98	第92図	仙谷8号墓埋葬施設	119
第76図	判別分析による日本人の性差	98	第93図	石井垣上河原4号墓 埋葬施設	120
第77図	日本人男女と縄文人3集団の判別結果		第94図	徳楽方墳・荘田2号墓	121
	(サイズ含む)	98	第95図	荘田2号墓墳裾出土土器	121
第78図	日本人男女と縄文人3集団の判別結果		第96図	妻木晩田遺跡周辺の墳丘墓及び前期古墳の	
	(サイズ含まず)	98		立地	121
第79図	銅銭の出土状況	99			

挿表目次

第II章		第7表	重鉍物・火山ガラス比分析結果	75
第1表	妻木晩田遺跡発掘調査年次計画	第8表	年代測定試料一覧	80
第2表	妻木晩田遺跡発掘調査一覧	第9表	放射性炭素年代測定結果	81
第III章		第10表	放射性炭素年代測定及び暦年較正結果	83
第3表	第III期重点調査 仙谷墳丘墓群	第11表	炭化材試料の観察・樹種同定結果	86
	調査年度と調査区一覧	第12表	炭化材の放射性炭素年代測定結果	87
		第13表	仙谷8号墓埋葬施設内堆積物の砂粒組成	
			観察結果	90
第IV章		第VII章		
第4表	蓋石一覧	第14表	仙谷2・3・5号墓埋葬施設 棺の種類	112
第5表	蓋石間の間詰石数	第15表	松尾頭1・2号墓埋葬施設 棺の種類	113
第V章		第16表	妻木晩田遺跡 墳丘墓築造時期	118
第6表	放射性炭素年代測定結果			

巻頭図版目次

巻頭図版 1	仙谷墳丘墓群近景 北西から	巻頭図版 4	仙谷 8 号墓埋葬施設 検出状況 北西から
巻頭図版 2	仙谷 8 号墓 北西から	巻頭図版 5	仙谷 8 号墓埋葬施設 棺底検出状況 北西から
巻頭図版 3	1 仙谷 8 号墓埋葬施設 検出状況 西から 2 仙谷 8 号墓埋葬施設 調査終了状況 西から	巻頭図版 6	仙谷 8 号墓埋葬施設 棺底 頭骨出土状況 南東から

写真図版目次

PL. 1	1 妻木晩田遺跡全景 北西から 2 仙谷地区・洞ノ原地区 墳丘墓群の立地 東から	PL. 7	1 南西側墳裾 貼石検出状況 (3T・4T) 南東から 2 北東側突出部検出状況 (9T) 北東から
PL. 2	1 仙谷墳丘墓群全景 南西から 2 仙谷 1 号墓・8 号墓・9 号墓 北西から (写真上から 1・8・9 号墓)	PL. 8	1 北東側突出部 南辺貼石検出状況 (9T) 南東から 2 北東側突出部 北辺貼石検出状況 (9T) 北西から 3 北東側突出部 甕 (6) 出土状況 (9T) 南から
仙谷地区東側丘陵		PL. 9	1 東側墳裾検出状況 (6T) 東から 2 東側墳裾貼石及び転落石検出状況 (6T) 南東から 3 仙谷 1 号墓東側 6T 調査終了状況 北西から
PL. 3	1 A 地点 S 1・S 2 南東から 2 A 地点 S 3 調査終了状況 南東から 3 B 地点 S 6 調査終了状況 南から	PL.10	1 仙谷 1 号墓東側 6T・11T 調査終了状況 北から 2 仙谷 1 号墓東側 11T 調査終了状況 北東から 3 仙谷 1 号墓東側 12T 調査終了状況 南西から
PL. 4	1 B 地点 S 6 東トレンチ断面 南西から 2 B 地点 S 7 調査後 南から 3 C 地点調査終了状況 北東から	仙谷 8 号墓・9 号墓	
仙谷 1 号墓		PL.11	1 仙谷 8 号墓・9 号墓 俯瞰 (写真上が南) 2 仙谷 8 号墓 調査終了状況 北西から
PL. 5	1 調査前 南東から 2 調査終了状況 東から		
PL. 6	1 南東側墳裾検出状況 (1T・2T) 北東から 2 南西側墳裾検出状況 (3T・4T) 南西から		

仙谷8号墓

- PL.12 1 H-H'ライン トレンチ調査終了状況
南西から
2 H-H'ライン 標高78～76m付近 北から
3 H-H'ライン 標高75m以下 北西から
- PL.13 1 I-I'ライン 南東から
2 J-J'ライン 南東から
3 K-K'ライン 南から

仙谷8号墓・9号墓

- PL.14 1 北側区画溝 東側調査終了状況 西から
2 北側区画溝 北東側埋土上面検出状況
北東から
3 北側区画溝 西側調査終了状況 北東から
- PL.15 1 北側区画溝 X-X'ライン 東から
2 北側区画溝 L-L'ライン 標高73m以下
南から
3 北側区画溝 L-L'ライン 標高75～74m付
近 南東から
4 北側区画溝 L-L'ライン 標高75m以上
南から
5 北側区画溝 N-N'ライン 南から
- PL.16 1 北側区画溝 M'-N'ライン 南西から
2 北側区画溝 L'-M'ライン 南東から
3 北側区画溝 W-W'ライン 東から
- PL.17 1 北側区画溝 O-O'ライン 北西から
2 北側区画溝 北東側調査終了状況 南から
3 北側区画溝 P-P'ライン 南東から

仙谷8号墓

- PL.18 1 南側区画溝 調査終了状況 北西から
2 南側区画溝及び墳丘盛土 Y-Y'ライン
北東から
- PL.19 1 墳丘盛土及び埋葬施設墓壇埋土 Y-Y'ラ
イン 北東から
2 墓壇埋土 Y-Y'ライン 東から

- PL.20 1 墳丘盛土及び埋葬施設墓壇埋土 Z-Z'ライ
ン 南西から
2 埋葬施設 墓壇検出状況 北西から
3 埋葬施設 墓壇南端部埋土断面 南西から
- PL.21 1 埋葬施設 検出状況 北西から
2 埋葬施設 石棺 棺底検出状況 北西から
- PL.22 1 埋葬施設 検出状況 北から
2 埋葬施設 検出状況 北東から
3 埋葬施設 検出状況 南西から
- PL.23 1 埋葬施設 緑石取り外し後 北西から
2 埋葬施設 間詰石検出状況 蓋石A・B・
C周辺 北東から
3 埋葬施設 間詰石検出状況 蓋石D・E周
辺 北東から
- PL.24 1 埋葬施設 蓋石上の間詰石取り外し後
北西から
2 埋葬施設 蓋石A・B・C・D検出状況
北東から
3 埋葬施設 蓋石A・B・C・D検出状況
南西から
- PL.25 1 埋葬施設 蓋石A・B・C取り外し後
北西から
2 埋葬施設 棺内埋土①・②層掘り下げ状況
北東から
3 埋葬施設 棺内埋土①・②層断面及び青灰
色の砂 頭骨周辺 北西から
- PL.26 1 埋葬施設 棺底(③層上面)検出状況
北西から
2 埋葬施設 棺底(③層上面)頭骨出土状況
北東から
3 埋葬施設 棺底(③層上面)頭骨出土状況
南西から

PL.27	1 埋葬施設 棺底 (③層上面) 頭骨出土状況 南東から	PL.34	1 北側墳裾検出状況 (A-A' ライン西側) 西から
	2 埋葬施設 棺底 (③層上面) 頭骨出土状況 東から		2 南西側墳裾検出状況 南東から
	3 埋葬施設 棺底 (③層上面) 頭骨出土状況 西から		3 西側墳裾検出状況及び F-F' ライントレン チ調査終了状況 南から
PL.28	1 埋葬施設 ③層掘り下げ状況 北東から	PL.35	1 F-F' ライン西側 ②~⑦層堆積状況 南東から
	2 埋葬施設 石棺北側小口石を差し込む溝 (写真上が西)		2 F-F' ライン西側墳裾付近 甕胴部片出土状 況 東から
	3 埋葬施設 石棺側石 d・e・g 設置状況 北から		3 F-F' ライン西側 ①層上面検出状況 南から
PL.29	1 埋葬施設 石棺裏込め土 縁石 a 背側 (h-h' ライン) 北西から	PL.36	1 F-F' ライン西側 ①層堆積状況 南から
	2 埋葬施設 石棺裏込め土 縁石 c 背面 (g-g' ライン) 北西から		2 Q-Q' ライン 北西から
	3 埋葬施設 石棺裏込め土 縁石 d・e 背面 (g-g' ライン) 北西から		3 Q-Q' ライン ⑧層堆積状況 西から
PL.30	1 埋葬施設 石棺裏込め土及び裏込め石検出 状況 縁石 f 背面 (i-i' ライン) 東から	PL.37	1 西側墳裾周辺 ⑧層上面検出状況 南西から
	2 埋葬施設 石棺裏込め石検出状況 縁石 b・d 背面 (写真上が南)		2 F-F' ライン東側 南東から
	3 埋葬施設 石棺裏込め石検出状況 北側小 口石北東部背面 (写真上が南)		3 G'-G ライン東側 北西から
PL.31	1 埋葬施設 調査終了状況 北西から	PL.38	1 G'-G ライン西側 北から
	2 埋葬施設 調査終了状況 北から		2 T-T' ライン 南から
	3 埋葬施設 調査終了状況 北東から		3 U-U ライン 北から
仙谷9号墓		PL.39	1 V-V' ライン 西から
PL.32	1 調査前 北西から		2 I 層 寛永通宝出土状況 北西から
	2 調査終了状況 北西から		3 北側墳裾 器台 (1) 出土状況 東から
PL.33	1 墳頂部北東側 調査終了状況 東から	PL.40	1 西側墳裾付近Ⅵ層 壺 (2) 出土状況 東から
	2 墳頂部南東側 調査終了状況 南東から		2 第2溝状遺構 (G-G' ライン北側部分) 検出状況 南西から
	3 南東側墳裾検出状況 (P-P' ライン北側) 北東から		3 第2溝状遺構 (G-G' ライン南側部分) 検出状況 南西から
			4 第2溝状遺構 a-a' ライン 南西から
			5 第2溝状遺構 b-b' ライン 南から
			6 第4土坑 検出状況 南西から
			7 第4土坑 調査終了状況 南西から
			8 第4土坑 土層断面 南東から

仙谷1号墓・9号墓

- PL.41 1 仙谷1号墓 出土土器
2 仙谷9号墓 北側墳裾付近 出土土器
PL.42 1 仙谷9号墓 西側墳裾付近 出土土器
2 仙谷9号墓 西側斜面 出土石器
3 北側区画溝 西側斜面 出土鉄器

3次元測量図

- PL.43 仙谷8号墓・9号墓 平面図（オルソ）
PL.44 仙谷8号墓 埋葬施設 平・立面図（オルソ）
PL.45 仙谷8号墓 埋葬施設 調査過程（オルソ）
PL.46 仙谷8号墓 埋葬施設 蓋石 A・B・C（オルソ）

- PL.47 1 仙谷1号墓 調査前（鳥瞰図 テクスチャ）
南西から
2 仙谷1号墓 調査終了状況（鳥瞰図 テクスチャ） 南西から
3 仙谷1号墓 調査終了状況（鳥瞰図 テクスチャ） 北東から
PL.48 1 仙谷1号墓 調査終了状況（鳥瞰図 テクスチャ） 南東から
2 仙谷8号墓埋葬施設 調査前（鳥瞰図 テクスチャ） 東から
3 仙谷8号墓埋葬施設 調査前（鳥瞰図 テクスチャ） 西から

第I章 妻木晩田遺跡の位置と環境

第1節 妻木晩田遺跡の位置

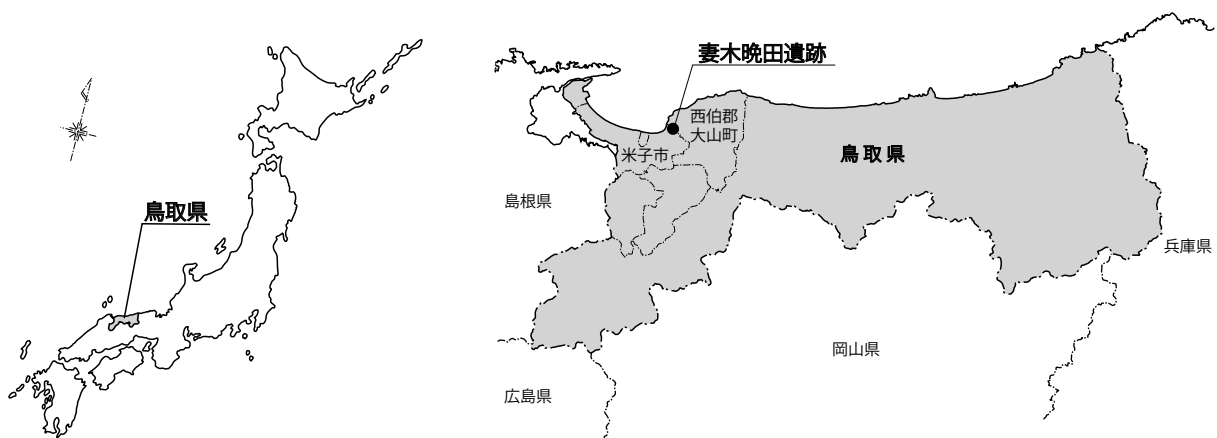
妻木晩田遺跡は、鳥取県西部、米子市（旧淀江町）及び西伯郡大山町に所在する。遺跡は中国地方最高峰の大山（弥山、標高 1,709 m）の北麓に位置し、大山火山の寄生火山である孝霊山（標高 751 m）から北西方向に派生する通称「晩田山」丘陵上（標高 90 ～ 180 m）に弥生時代後半期の大規模弥生集落が展開する。この「晩田山」丘陵の西側尾根筋に米子市と大山町の境界があり、行政区分においては、妻木晩田遺跡全体の約 1 割を米子市、残り約 9 割を大山町が占めている。

妻木晩田遺跡が立地する「晩田山」丘陵は、小起伏の丘陵性の山地である。その地形は、深い谷地形に分断された 4 つの丘陵に大別される。丘陵の尾根筋は北側 3 つが比較的広くなだらかであるのに対し、最も南側はやや急峻である。弥生集落は主に北側の 3 つの丘陵上に営まれるが、最盛期にあたる弥生時代後期後葉には集落の規模が拡大し、急峻な南側の丘陵上にも竪穴住居が構築されるようになる。妻木晩田遺跡では、これまでの発掘調査によって、竪穴住居が丘陵頂部縁辺の緩斜面に分布することがわかってきているが、斜面下方から谷部にかけての土地利用の様相は不明な点が多く、今後の調査で確認していく必要がある。

第2節 地理的環境

妻木晩田遺跡の南にそびえる大山火山は、東西約 35km、南北約 30kmにおよぶ広がりをもつ複成火山で、主に約 100 ～ 40 万年前の古期噴出物と約 40 万年前以降の活動による新期噴出物から成る。妻木晩田遺跡がある「晩田山」丘陵の地形は、大山火山の影響を大きく受けており、大山の古期噴出物である溝口凝灰角礫岩層を基盤とする。また、遺跡内では新期噴出物である松江軽石層の堆積も部分的に見られる。

「晩田山」丘陵北側の裾野には、大山火山から噴出した火砕流を基盤とするなだらかな台地が広がり、放射状に流れる河川の活動により裾野に扇状地が発達している。特に阿弥陀川は急流でたびたび氾濫して流れを変えたと見られ、多量の砂礫を流下し広大な扇状地を形成した。阿弥陀川の河口から淀江



第1図 妻木晩田遺跡の位置

町今津に至る海岸は、主に阿弥陀川によってもたらされた角閃石安山岩の円礫で占められ、海岸線の背後には海岸段丘が認められる。

「晩田山」丘陵北西側では、山裾に段丘地形が広がり、妻木川や天井川、宇田川により形成された小規模な扇状地が山際から張り出すように認められる。その下流では、西側の壺瓶山と北側の海浜部に発達した砂州との間に三角州が形成された。これが淀江平野である。この三角州はかつて存在した潟湖の痕跡でもある。気候の寒冷化が進み海退が始まった縄文時代終わり頃から弥生時代にかけて淀江平野には汽水域が形成され、その後、砂州の発達によって外海から閉ざされ湖沼化した。淀江平野のほぼ中央に位置する井手勝遺跡からは弥生時代後期～古墳時代の木製農具が出土



第2図 妻木晩田遺跡周辺の地形

しており、この頃、湖沼の周辺で水田が営まれていたことがうかがえる。淀江平野の湖沼は古代から中世にかけて規模が縮小し、近世にはほぼ消滅したと考えられている。現在、平野一帯に水田が営まれておりかつての湖沼の面影は失われているが、三角州と砂州の境界はJR山陰本線に沿う高まりに痕跡を確認することができる。

第3節 歴史的環境

旧石器時代

妻木晩田遺跡周辺の歴史は旧石器時代まで遡り、石器製作技術など多様なあり方を示している。鳥取県内で始良丹沢火山灰層以下で旧石器が確認されたのは、大山町にある門前第2遺跡（西畝地区）及び豊成叶林遺跡の2例である。門前第2遺跡では、始良丹沢火山灰層直下で黒曜石製のナイフ形石器や黒曜石剥片を含む石器群が確認されている。豊成叶林遺跡では石器ブロックが2ヶ所確認され、その周辺からは玉髓製のナイフ形石器、石刃、剥片のほか、黒曜石製のナイフ形石器も出土している。その他、近隣の遺跡からは、米子市淀江町の原畑遺跡から杉久保型ナイフ形石器、大山町小谷遺跡で国府型ナイフ形石器が出土している。妻木晩田遺跡洞ノ原地区でも、出土した黒曜石製の剥片石器のなかに縦長剥片を素材とする二側縁加工のナイフ形石器や打面を残置する一側縁加工のナイフ形石器などが少量確認できる。海に面した低丘陵という立地から、旧石器時代の生活痕跡が残されている可能性もあり、今後の調査で注意しておく必要がある。

縄文時代

大山山麓では、サヌカイトや黒曜石を素材とした有舌尖頭器が出土している。また、大山町南川遺跡では、後期の石組炉を伴う竪穴住居跡が確認されている。妻木晩田遺跡周辺では、旧淀江潟の縁辺に位置する米子市淀江町井手勝遺跡、福岡遺跡や、妻木川の扇状地に位置する大山町塚田遺跡、妻木法大神遺跡などから、縄文時代後晩期を中心とするまとまった量の遺物が出土している。これらの遺跡では居住に関わる遺構は確認されていないが、周辺の微高地や段丘上に集落跡が存在する可能性が

ある。妻木晩田遺跡では落とし穴と考えられる土坑群も多数検出されており、稀に後晩期の土器を伴う。このことから、集落の狩猟採集の場として「晩田山」丘陵をはじめ近隣の丘陵が利用されていたことがうかがえる。

弥生時代

弥生時代には、おもに阿弥陀川の扇状地及び丘陵上、妻木川の扇状地、淀江平野、「晩田山」丘陵、佐陀川右岸の扇状地の5ヶ所を中心に遺跡が分布する。

前期後半から中期前葉にかけては、阿弥陀川左岸の扇状地にある上野遺跡群で土器が出土し、妻木川の扇状地に位置する妻木法大神遺跡では、自然河道から前期後半の土器が多量に出土している。この時期の居住域の具体的な様相は明らかになっていないが、妻木川と阿弥陀川流域の扇状地を生活の拠点としており、今津岸の上遺跡と大塚岩田遺跡において前期の環壕が確認されていることから、これらが当該期の集落の一部であることは間違いないだろう。

中期中葉から後葉になると、阿弥陀川左岸の扇状地にあたる塚田遺跡で竪穴住居跡が確認できる。大道原遺跡や新田原遺跡などでも当該期の土器が出土していることから、遺跡の分布が扇状地高所側へ広がり始めたことが読み取れる。阿弥陀川右岸では、大山北麓のなだらかな台地上において、中期中葉から古墳時代にかけて茶畑遺跡群を中心に集落が営まれる。茶畑遺跡群では独立棟持柱を持つ大型掘立柱建物跡が検出され、この時期に祭祀空間を伴う大きな集落が形成されている点は特筆される。

妻木川左岸の扇状地では、晩田遺跡などで中期中葉から後葉の土器が認められ、遺跡の分布が「晩田山」西側裾野に広がり始める。中期中葉までは遺跡が確認できない天井川、宇田川の扇状地においても角田遺跡や日吉塚古墳盛土から中期後葉の土器が認められ、当該期に遺跡の分布域が拡大している。角田遺跡、日吉塚古墳盛土ではいずれも絵画土器が出土し、当地における祭祀空間を伴う集落の存在が示唆される。

一方、佐陀川右岸の扇状地においては、中期後葉から古墳時代にかけて百塚遺跡群を中心とした集落が営まれる。後期前葉には四隅突出型墳丘墓と環壕を伴う集落が尾高浅山遺跡に認められる。尾高浅山遺跡では後期中葉以降には台状墓が営まれ、墳丘墓の造営が継続されている。

妻木晩田遺跡では、中期中葉の土器を伴う方形土坑が洞ノ原地区西側丘陵で確認されている。ただし、竪穴住居跡は未検出であり、この頃に居住域として利用されていたのかどうかは判然としない。「晩田山」丘陵下には晩田遺跡があることから、山裾の段丘上が居住地であった可能性もある。

「晩田山」丘陵上に確実に居住域が形成されるのは中期後葉で、松尾頭地区で竪穴住居跡や貯蔵穴と推測される土坑などが確認される。他の地区では貯蔵穴や土坑が点在するのみであり、全体的に遺物の出土数も少ないことから、この段階の妻木晩田遺跡はまだ小規模な集落である。ただし、松尾頭地区では絵画土器や分銅形土製品などが認められ、時期は不確定であるが銅剣形石製品も出土している。松尾頭地区に祭祀空間があったのは間違いない。

後期になると、妻木晩田遺跡がこの地域の中心的な集落となる。後期前葉には、洞ノ原地区では、環壕や墳丘墓群が造られ、妻木新山地区や妻木山地区、松尾頭地区においても、数棟の竪穴住居からなる居住域が形成される。このうち、洞ノ原地区の洞ノ原1号墓、同2号墓は、米子市尾高浅山遺跡の四隅突出型墳丘墓と並び、大山北西麓最古の首長墓として位置づけられている。首長墓の登場と同時に、その後の大規模集落発展に繋がる居住域の形成が始まる点は重要である。後期中葉になると、洞ノ原地区の環壕は徐々に埋没し、墓域は仙谷墳丘墓群に移る。この頃から集落規模は拡大し、最盛

期を迎える後期後葉になると、丘陵全体に居住域が広がり、洞ノ原地区や松尾城地区にも分布が拡大する。仙谷墳丘墓群から松尾頭墳丘墓群に墓域が移り始める終末期前半には集落全体の竪穴住居数は一度減少するもののその後回復し、集落は古墳時代前期前葉まで継続的に営まれる。

集落最終段階とも言える古墳時代前期前葉に築かれたのが、仙谷8号墓、9号墓である。これら「晩田山」丘陵上に展開する首長墓と、妻木晩田遺跡から約1km離れた丘陵縁辺に位置し四隅突出型墳丘墓の可能性が指摘されている徳楽方墳（大山町長田）や、荘田2号墓（大山町荘田）との関係は、大規模弥生集落の最終段階の首長墓の系列を考える上で重要な検討課題である。

古墳時代

古墳時代前期中葉になると、妻木晩田遺跡の集落は急速に縮小し、その後の集落がどこに移ったの



第3図 妻木晩田遺跡周辺の遺跡

かは未だ明らかになっていない。

代わって「晩田山」丘陵上には多くの古墳が造営されるようになる。洞ノ原地区には晩田山古墳群、妻木山地区には番田山古墳群、妻木新山地区には妻木山古墳群、松尾頭地区には松尾頭古墳群がそれぞれ所在する。このうち、古墳群の形成が最も早いのは、洞ノ原地区の晩田山古墳群である。築造時期を明確に示す土器は出土していないが、前期に遡る古墳と考えられるのは、前方後円墳である晩田山3号墳のほか、方墳である晩田山11号墳、円墳の晩田山10・17号墳である。晩田山古墳群での最古相の古墳の様相を明らかにすることは、大規模弥生集落終焉後の集落と、当地域の古墳築造開始期の墓制の在り方を考える上で大変重要である。

中期から後期にかけて首長墓の系譜は、丘陵下に位置する小枝山古墳群、向山古墳群、富岡播磨洞

阿弥陀川右岸扇状地周辺の遺跡	47 国信第1遺跡	89 淀江井手跡遺跡	壺瓶山～尾高丘陵周辺の遺跡
1 荒田遺跡	48 国信第2遺跡	90 瓶山古墳群	116 壺瓶山第4遺跡
2 山村遺跡	49 国信第3遺跡	Ka-1 瓶山4号墳	117 壺瓶山古墳群
3 下大山第4(d)遺跡	50 唐王遺跡	91 福岡谷ノ上遺跡	Tu-1 壺瓶山029号墳
4 富長第1遺跡	51 清原遺跡	92 向山古墳群	(大転場古墳)
5 下大山第2(a)遺跡	52 中高遺跡	Mu-1 向山1号墳	118 福頼遺跡
6 下大山第3(b)遺跡	53 平古墳群	(岩屋古墳)	119 大下畑遺跡
7 富長城跡	Ta-1 平6号墳(平狐塚)	Mu-2 向山3号墳	120 小波遺跡
8 富長第2遺跡	54 仁王堂遺跡	Mu-3 向山4号墳	121 百塚第1～7遺跡
9 古御堂遺跡	55 宮内古墳群	Mu-4 向山5号墳	122 百塚古墳群
10 古御堂曾利遺跡	Mi-1 宮内1号墳	(長者ヶ平古墳)	123 西小原遺跡
11 文珠領屋敷遺跡	Mi-2 宮内2号墳	93 小枝山古墳群	124 小波城跡(小浪城)
12 文珠領遺跡	56 宮内第3遺跡	Ko-1 小枝山4号墳	125 小波下原田遺跡
13 古御堂新林遺跡	57 末吉城跡	(上ノ山古墳)	126 小波上遺跡
14 古御堂金蔵ヶ平遺跡	58 末吉遺跡	Ko-2 小枝山3号墳	127 小波原畑遺跡
15 古御堂笹尾山遺跡	59 上万遺跡	Ko-3 小枝山5号墳	128 小波狭間谷遺跡
16 原遺跡	60 妻木法大神遺跡	(石馬谷古墳)	129 原田遺跡
17 茶畑第1遺跡	61 新田原遺跡	Ko-4 小枝山6号墳	130 泉上経前遺跡
18 茶畑山道遺跡	62 大道原遺跡	Ko-5 小枝山012号墳	131 泉中峰・泉前田遺跡
19 押平尾無遺跡	63 塚田遺跡	94 小枝山遺跡	132 岡成古墳群
20 茶畑古墳群	64 荘田古墳群	95 彼岸田遺跡	133 喜多原第5遺跡
21 茶畑第2遺跡	Sy-1 荘田2号墓	96 稲吉遺跡	134 喜多原第1遺跡
22 大塚塚根遺跡	65 長田古墳群	97 城山古墳群	135 喜多原第2遺跡
23 大塚岩田遺跡	Na-1 長田014号墳	Si-1 城山010号墳	136 喜多原第3遺跡
24 大塚殿信遺跡	(徳楽方墳)	(持給院古墳)	137 喜多原第4遺跡
25 大塚成仏遺跡	66 長田第3遺跡	98 稲吉古墳群	138 岡成第1遺跡
26 大塚第4遺跡	67 長田早稲田遺跡	99 四十九谷横穴墓群	139 岡成第9遺跡
27 道垣遺跡	68 長田玉谷遺跡	100 鮎ヶ口遺跡	140 岡成第2遺跡
28 茶畑六反田遺跡	69 長田的場遺跡	101 富繁渡り上り遺跡	141 岡成第7遺跡
29 茶畑本家遺跡	70 長田大新田遺跡	102 河原田遺跡	142 仲間古墳群
30 東高田遺跡	71 長田第5遺跡	103 稲吉角田遺跡	143 尾高古墳群
31 大塚第2遺跡	72 長田第8遺跡	104 高井谷遺跡	144 岡成第6遺跡
32 大塚三反田遺跡	73 長田第9遺跡	105 高井谷古墳群	145 尾高御建山遺跡
33 大塚第3遺跡	74 長田大新田ノ二遺跡	Tak-1 高井谷5号墳	146 尾高泉原遺跡
34 大塚屋敷遺跡	75 香原山城(カヲ城)	106 井手挾遺跡	147 尾高城跡
35 押平上六反遺跡	淀江平野周辺の遺跡	107 井手挾古墳群	148 尾高遺跡
36 押平天王屋敷遺跡	76 安原遺跡	Ide-1 井手挾3号墳	
37 押平弘法堂遺跡	77 富岡播磨洞遺跡	108 中西尾古墳群	
38 京ヶ坪遺跡	78 安原溝尻遺跡	Na-1 中西尾7号墳	
39 西高田遺跡	79 今津岸の上遺跡	(日吉塚古墳)	
40 高田古墳群	80 今津塚田遺跡	Na-2 中西尾5号墳	
Taka-1 高田26号墳	81 晩田遺跡	Na-3 中西尾3号墳	
阿弥陀川左岸扇状地周辺の遺跡	82 楚利遺跡	(長塚古墳)	
41 福尾城跡	83 北尾宮廻遺跡	109 高井谷東美谷古墳群	
42 福尾第1遺跡	84 福岡北尾尻遺跡	110 富繁流田遺跡	
43 福尾第2遺跡	85 福岡柳谷遺跡	111 富繁古墳群	
44 上野第1遺跡	86 北尾城跡	112 富繁城跡(亀山城)	
45 上野第3遺跡	87 上淀廃寺跡	113 西尾原横穴墓群	
46 上野第2遺跡	88 福岡遺跡	114 西尾原古墳群	
		115 福頼古墳群	

古墳群に移る。この時期、妻木晩田遺跡の各古墳群では小規模な古墳の築造が続き、松尾頭地区では小規模な居住が認められる。その後、終末期になると、洞ノ原地区丘陵裾部において、出雲地域の影響を強く受けた切石積の横穴式石室をもつ晩田山 1 号墳、2 号墳、31 号墳が築造される。

また、中期後葉から後期にかけて「百塚遺跡群」を中心に大規模な集落が営まれる。付近には百塚古墳群があり、いわゆる群集墳と、それを造営した集団の居住域が確認されている点は注目される。

古代・中世以降

飛鳥時代になると、小枝山古墳群や向山古墳群が位置する米子市淀江町字福岡に、彩色壁画の出土等で注目される上淀廃寺が建立される。奈良時代になると、妻木晩田遺跡松尾城地区、松尾頭地区に小規模な集落が認められる。平安時代以降には、洞ノ原地区において土師器や須恵器が少量出土するものの、この頃の集落の存在は明らかになっていない。中世には、松尾城地区に山城が築かれる。斜面地に確認できる地形には、この頃の土塁や曲輪状の遺構も含まれている可能性があるが、現況では判然としない。今後の発掘調査で明らかにしていく必要があるだろう。

主要参考文献

- 岩田文章編 1997 『妻木晩田遺跡 小真石清水地区発掘調査報告書』 淀江町埋蔵文化財調査報告書 42、淀江町教育委員会
- 岩田文章編 2000 『妻木晩田遺跡 洞ノ原地区・晩田山古墳群発掘調査報告書』 淀江町埋蔵文化財調査報告書 50、淀江町教育委員会
- 君嶋俊行編 2008 『史跡妻木晩田遺跡松尾頭地区発掘調査報告書－第 16・19 次調査－』 史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書第Ⅲ集、鳥取県教育委員会
- 佐々木謙 1981 『宇田川』、淀江町教育委員会
- 大山町誌編さん委員会編 1980 『大山町誌』、大山町役場
- 大山町誌編集委員会編 2010 『続大山町誌』、大山町
- 玉木秀幸編 2011 『史跡妻木晩田遺跡松尾頭地区発掘調査報告書－第 20・21・23 次調査－』 史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書第Ⅳ集、鳥取県教育委員会
- 津久井雅志 1984 「大山火山の地質」『地質学雑誌』 第 90 巻第 9 号、日本地質学会
- 中原斉 2001 「分布調査について」『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2000』、鳥取県教育委員会
- 濱田竜彦編 2003 『史跡妻木晩田遺跡第 4 次発掘調査報告書－洞ノ原地区西側丘陵の発掘調査－』 史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書第Ⅰ集、鳥取県教育委員会
- 馬路晃祥編 2006 『史跡妻木晩田遺跡妻木山地区発掘調査報告書－第 8・11・13 次調査－』 史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書第Ⅱ集、鳥取県教育委員会
- 松井潔 1996 「山陰東部における後期弥生墓制の展開と画期」『考古学と遺跡の保護』 甘粕健先生退官記念論集刊行会
- 松本哲他編 2000 『妻木晩田遺跡発掘調査報告Ⅰ～Ⅳ』 大山町埋蔵文化財調査報告書第 17 集、大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・大山町教育委員会
- 山口剛編 2000 『大山町内遺跡発掘調査報告書』 大山町教育委員会
- 淀江町誌編纂委員会編 1985 『淀江町誌』、淀江町

第Ⅱ章 発掘調査に至る経緯

第1節 発掘調査の経緯

妻木晩田遺跡の第1次調査は、ゴルフ場開発を契機に平成7年に始まった。第1次調査では、当初は丘陵ごとに「洞ノ原遺跡」「妻木山遺跡」などの遺跡名を付し、別個の遺跡として認識、調査されていた。その後、丘陵頂部を中心に平成10年までに約17haにおよぶ調査がおこなわれ、弥生時代中期中葉から古墳時代前期及び後期から終末期の集落跡、古墳群、奈良時代の集落跡などが発見された（大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・大山町教育委員会2000、淀江町教育委員会2000）。特に、弥生時代後期から古墳時代前期には、丘陵の尾根上に居住域が展開し、約170haと推測される大規模な集落跡が形成されていたことが明らかになったことから、通称「晩田山」丘陵で確認された別個の遺跡を同一の遺跡群にとらえ、「妻木晩田遺跡群」と呼称されるようになった。

平成11年、妻木晩田遺跡は、山陰地方の弥生時代集落を研究するうえで貴重な遺跡として全面保存が決定し、約150haの範囲が国の史跡に指定された。史跡指定にあたり、遺跡全体をひとつの大きな集落遺跡として捉えるべきという観点から、遺跡名を「妻木晩田遺跡」と呼びかえることになった。なお、松尾頭地区と同一丘陵にある小真石清水遺跡については、平成5年から平成6年にかけて発掘調査が行われ、弥生時代後期後葉から終末期の竪穴住居跡が検出されている（淀江町教育委員会1997）。よって、妻木晩田遺跡と同一の集落と評価でき、松尾頭地区の一部として位置づけられている。

第2節 発掘調査の課題と計画

1 調査計画

鳥取県教育委員会では、妻木晩田遺跡の全体像を明らかにするために、平成12年度から妻木晩田遺跡発掘調査委員会の指導、助言のもと、計画的、継続的に発掘調査等の考古学的調査を実施している。平成12年度に発掘調査を実施するにあたり、はじめに以下の5つの調査課題を設定した。

- A 集落の構造と変遷に関する問題
- B 墓制に関する問題
- C 生活空間・生業に関する問題
- D 古環境に関する問題
- E 弥生時代以前、弥生時代以降の妻木晩田遺跡とその周辺に関する問題

また、平成14年度以降は、発掘調査をその方法と目的に応じて以下の①～③のように分類し実施することとした。

①重点調査：妻木晩田遺跡の詳細を明らかにするために行う特定地区を対象とする発掘調査。

長期計画及び短期計画、そして内容確認調査の成果に基づき発掘調査を計画、実施する。

②内容確認調査：妻木晩田遺跡の全体像を把握することを目的に、史跡指定地内及びその周辺を含む広域を対象とした発掘調査。分布調査の成果に基づき内容を確認するためにトレンチ調査を実施する。

③分布調査：妻木晩田遺跡の全体像を現況から把握することを目的に、史跡指定地内及びその周辺

を対象とした踏査を実施する。

これらの調査がそれぞれ関連性をもつように発掘調査年次計画（第1表）を定め、調査研究課題の解決を図っている。これまでの発掘調査の一覧は第2表のとおりである。

2 長期計画第Ⅰ期の概要

平成12年度から平成21年度までの10年間を長期計画第Ⅰ期とし、重点調査については、調査課題Aを中心に、課題C・Dの解明を目指して調査を実施した。

短期計画第1期

平成12年度、平成13年度の2年間は短期計画第1期とし、「形成期の集落像の解明」を目的として、洞ノ原地区西側丘陵の環壕とその内部空間の在り方を明らかにするために重点調査をおこなった。その結果、環壕が機能していた後期前葉には内部空間に居住に関わる建物は認められないこと、後期中葉以降に環壕は埋没が進み、集落最盛期にあたる後期後葉に洞ノ原西側丘陵は居住域へ変遷することが明らかになった（鳥取県教育委員会2003）。

短期計画第2期

続く平成14年度から平成16年度までの3年間は短期計画第2期とし、「最盛期の集落像の解明」を目的として妻木山地区で重点調査を行った。その結果、最盛期となる後期後葉の集落は、3棟前後の竪穴住居を1単位とする居住単位が丘陵頂部の縁辺部に分布し、これらのまともは廃絶と建て替えを行いながら2～3段階にわたり変遷していたことが明らかになった（鳥取県教育委員会2006）。内容確認調査は、平成15年度に、妻木山地区と妻木新山地区を結ぶ丘陵鞍部で、旧地形の復元と居住域の分布を確認するためのトレンチ調査をおこない（鳥取県教育委員会2004）、平成16年度には、松尾頭地区及び妻木山地区で斜面地の遺構分布を把握するためにトレンチ調査を行った（鳥取県教育委員会2005）。

短期計画第3期

平成17年度、平成18年度の2年間は、短期計画第3期とし、「首長層居住域の実態解明」を目的として松尾頭地区で重点調査を行った。特に妻木晩田遺跡では唯一庇付きの構造をもつ大型庇付掘立柱建物跡（第41建物跡）を取り巻く遺構の分布状況と時期を明らかにすることを目的として調査を進めた。その結果、第41建物跡は、同時期に存在した竪穴住居の居住単位に含まれ、区画溝などの施設を伴わない形で存在していたことが明らかになった。第41建物跡を含む竪穴住居群は、大型竪穴住居や青銅鏡などの首長の存在を直接示すような遺構・遺物は認められないが、第41建物跡の北西に位置する第53竪穴住居跡からは21点の鉄製品が出土し、鉄製品を多く保有する竪穴住居群であったことが明らかになった（鳥取県教育委員会2008）。内容確認調査は、遺構の分布状況を把握するために、松尾頭地区・松尾城地区・妻木新山地区においてトレンチ調査を行った（鳥取県教育委員会2006、鳥取県教育委員会2007）。

短期計画第3期の調査成果をうけ、大型掘立柱建物と、大型竪穴住居を含む居住単位との関係を明らかにすること、旧小真石清水遺跡を含む松尾頭地区全体の集落構造を明らかにすることが、「首長層居住域」である松尾頭地区の構造を解明するために必要と考えられたことから、第Ⅰ期計画を延長して、新たに短期計画第4期を策定し、松尾頭地区の発掘調査を継続することが決定した。

短期計画第4期

平成19年度から平成21年度までの3年間を短期計画第4期とし、「松尾頭地区の集落像の解明」を目的とする重点調査を行った。第1次調査において、松尾頭地区では最盛期となる後期後葉に床面積30㎡を超える大型竪穴住居群が検出され、周囲に庇付きの大型掘立柱建物が確認されたことから、松尾頭地区の中心的な役割を果たす居住単位と考えられてきた。短期計画第4期の重点調査によって、大型掘立柱建物を含む周囲の居住単位の在り方を確認した結果、これらの居住単位では鉄製品やガラス製品などを保有する傾向にあることが明らかになったが、新たな大型竪穴住居は確認されなかった。仙谷墳丘墓群から松尾頭墳丘墓群に墓域が変遷する終末期後半には、大型竪穴住居の立地が東に移り、松尾頭地区の中心が同一丘陵の東側へ移動したことが明らかになった（鳥取県教育委員会2011a）。

3 長期計画第Ⅱ期の概要

長期計画第Ⅱ期は、平成22年度から平成30年度までの8年間とし、調査課題Bを中心に、課題C・Dの解明を目指している。

短期計画第1期

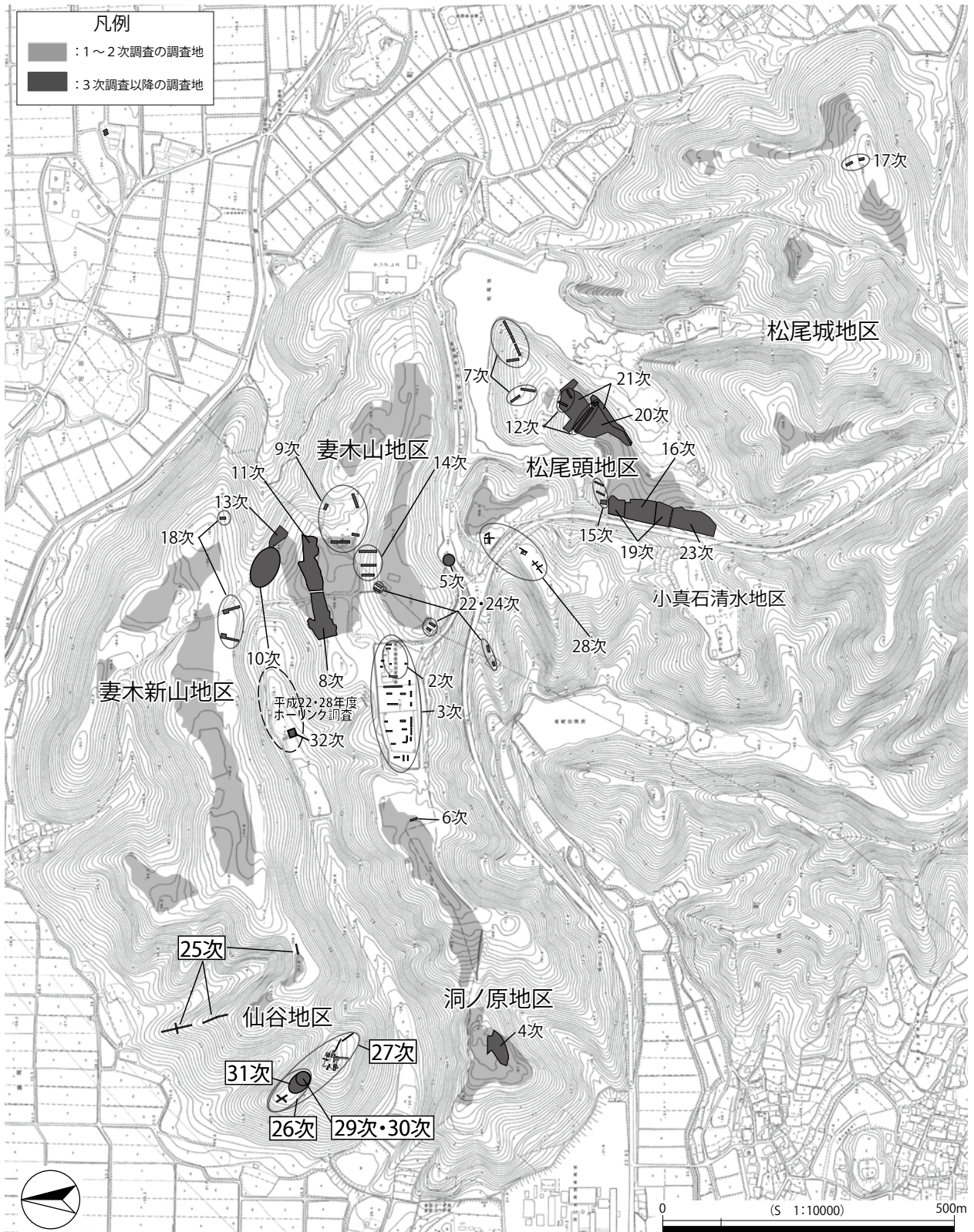
平成22年度から平成27年度までの6年間を短期計画第1期とし、「墳墓域の実態解明」を調査課題として仙谷墳丘墓群の重点調査を行った（鳥取県教育委員会2011b～2016）。この間、松尾頭墳丘墓群では、未調査地である墓域西側の様相を把握するための内容確認調査を平成25年度に実施し、松尾頭1号墓・同2号墓から西側へ延びる同一丘陵上に新たな墳丘墓を確認し、墓域が更に西へ展開することが明らかになった（鳥取県教育委員会2014）。

仙谷墳丘墓群の調査と目的

仙谷墳丘墓群は、試掘調査及び第1次調査時に7基の墳丘墓が確認されており、弥生時代後期中葉と終末期の2時期における墓域と推測された場所である（大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・大山町教育委員会2000）。妻木晩田遺跡の墓域の調査では、集落最盛期の墳丘墓や墳丘をもたない土壙墓・木棺墓群の有無の確認など課題が多く残されているなか、仙谷墳丘墓群では、分布調査によって未調査地に段状の地形や高まり、平坦な地形などが認められ、さらに墓域が広がることが想定された（鳥取県教育委員会2006b）。また、妻木晩田遺跡最大の四隅突出型墳丘墓である仙谷1号墓については、最盛期に向かう集落の首長墓の可能性があったが試掘調査にとどめられていたため、築造時期や墳丘の構造、被葬者の情報や、周囲の墳丘墓の分布状況など詳細を明らかにする必要がある。そこで、仙谷墳丘墓群の範囲及び帰属する墳丘墓の構造と築造時期、墳丘を持たない土壙墓・木棺墓群の有無を確認し、妻木晩田遺跡における弥生時代後半期の墓域と居住域との関係を明らかにすることを目的として、仙谷地区東側丘陵で平成22年度（第25次）、同西側丘陵で平成23～27年度（第26・27・29～31次）に重点調査を行うことが決定した。

第1表 妻木晩田遺跡発掘調査年次計画

年次	重点調査		内容確認調査	分布調査	報告書
	調査課題	調査地			
H12	形成期の集落像の解明	洞ノ原地区西側丘陵	初期整備に伴う確認調査	全域	
H13				松尾頭地区	
H14	最盛期の集落像の解明	妻木山地区	妻木山地区	妻木山地区	洞ノ原
H15			妻木山地区	松尾頭地区 松尾城地区	
H16			松尾頭地区	妻木新山地区	
H17	首長層居住域の実態解明	松尾頭地区（4～6区）	松尾頭・松尾城地区	仙谷地区	妻木山
H18			妻木新山地区		
H19	松尾頭地区の集落像の解明	松尾頭地区（7区）			松尾頭
H20		松尾頭地区（8区）			
H21		松尾頭地区（9区）			
H22	墳墓域の実態解明	仙谷地区東側丘陵			松尾頭
H23		仙谷地区西側丘陵 （仙谷8号墓ほか）			
H24		仙谷地区西側丘陵 （仙谷1号墓・8号墓ほか）			
H25		仙谷地区西側丘陵 （仙谷8号墓）	松尾頭地区1区・10区		
H26		仙谷地区西側丘陵 （仙谷8号墓）			
H27		仙谷地区西側丘陵 （仙谷8号墓・9号墓）			
H28			妻木山地区谷部の内容確認調査／谷部のポーリング調査		仙谷（本書）
H29		松尾頭10区東			
H30		松尾頭10区西			
H31		出現期、展開期における集落像の解明	妻木新山地区		
H32					
H33以降	※調査成果を踏まえて調査地を検討し、継続的に発掘調査を実施。				妻木新山



第4図 妻木晩田遺跡調査区位置図

第2表 妻木晩田遺跡発掘調査一覧

次数	調査区	目的	期間 (S:昭和 H:平成)	面積 (㎡)	文献
	松尾頭遺跡	試掘調査	S52. 4.20 ~ S53. 3. 2	720.00	大山町教育委員会 1978
	松尾頭遺跡	記録保存	S53.12 ~ S54. 3		大山町教育委員会 1979
	妻木新山遺跡	試掘調査	H 4.10.21 ~ H 4.12. 8	302.00	大山町教育委員会 1993
	妻木新山遺跡 (含仙谷1号墓)	試掘調査	H 4.12. 9 ~ H 5. 9. 1	432.00	大山町教育委員会 1994b
	妻木新山遺跡 (含仙谷2・3号墓) 妻木山遺跡 松尾頭遺跡 松尾城跡	試掘調査	H 5. 9. 2 ~ H 6. 1.11	1,252.75	大山町教育委員会 1994a
	小真石清水遺跡	試掘調査	H 5. 5.20 ~ H 5. 6. 4	226.00	淀江町教育委員会 1995
	小真石清水地区	記録保存	H 5. 7. 2 ~ H 5. 9.13	6,800.00	淀江町教育委員会 1997
	晩田遺跡群 (洞ノ原地区)	試掘調査	H 5.10. 5 ~ H 6. 2.24	143.00	淀江町教育委員会 1995
	妻木山遺跡	試掘調査	H 6. 1.12 ~ H 6. 3.31	288.50	大山町教育委員会 1994b
1次	妻木新山地区 仙谷地区 妻木山地区 洞ノ原地区 松尾頭地区 松尾城地区	記録保存 (現状保存)	H 7. 3. 5 ~ H10. 3.31	164,500.00	大山町教育委員会他 2000 淀江町教育委員会 2000
2次	仙谷地区 妻木山地区 洞ノ原地区	試掘調査	H11.11. 4 ~ H12. 2.14	411.50	大山町教育委員会他 2000 淀江町教育委員会 2000
3次	妻木山地区	試掘調査	H12. 4.24 ~ H12. 5.18	505.40	鳥取県教育委員会 2001
4次	洞ノ原地区	内容確認	H12. 7. 6 ~ H14.12.28	3,500.00	鳥取県教育委員会 2003b
5次	妻木山地区	試掘調査	H12.12. 4 ~ H13. 1.11	9.00	鳥取県教育委員会 2001
6次	洞ノ原地区	内容確認	H13. 2.19 ~ H13. 7.23	14.00	鳥取県教育委員会 2002
7次	松尾頭地区	試掘調査	H13. 2.19 ~ H13. 5.21	266.00	鳥取県教育委員会 2002
8次	妻木山地区	重点調査	H14. 6.14 ~ H15. 2.26	2,300.00	鳥取県教育委員会 2006b
9次	妻木山地区	内容確認調査	H14.10. 2 ~ H14.11.29	96.50	鳥取県教育委員会 2003a
10次	妻木山地区	内容確認調査	H15. 4.23 ~ H15.11.28	135.00	鳥取県教育委員会 2004
11次	妻木山地区	重点調査	H15. 5.15 ~ H15.12. 9	2,500.00	鳥取県教育委員会 2006b
12次	松尾頭地区	内容確認調査	H16. 4.23 ~ H16.11.28	270.00	鳥取県教育委員会 2005
13次	妻木山地区	重点調査	H16. 5.31 ~ H16.12. 9	1,200.00	鳥取県教育委員会 2006b
14次	妻木山地区	内容確認調査	H16.10. 1 ~ H16.12.21	190.00	鳥取県教育委員会 2005
15次	松尾頭地区	内容確認調査	H17. 4.26 ~ H17. 9.27	112.00	鳥取県教育委員会 2006a
16次	松尾頭地区	重点調査	H17. 5.25 ~ H17.12.23	1,100.00	鳥取県教育委員会 2008a
17次	松尾城地区	内容確認調査	H17.11.11 ~ H18. 3.17	34.00	鳥取県教育委員会 2006a
18次	妻木新山地区	内容確認調査	H18. 5.15 ~ H18.10.12	199.00	鳥取県教育委員会 2007
19次	松尾頭地区	重点調査	H18. 6. 6 ~ H19. 1.16	1,488.00	鳥取県教育委員会 2008a
20次	松尾頭地区	重点調査	H19. 6.20 ~ H19.12.27	2,350.00	鳥取県教育委員会 2011a
21次	松尾頭地区	重点調査	H20. 5. 7 ~ H20.11.27	1,600.00	鳥取県教育委員会 2011a
22次	妻木山地区 松尾頭地区	試掘調査	H20. 6.10 ~ H20.11. 4	40.00	鳥取県教育委員会 2009
23次	松尾頭地区	重点調査	H21. 4.20 ~ H21.10.30	2,100.00	鳥取県教育委員会 2011a

次数	調査区	目的	期間 (S:昭和 H:平成)	面積 (㎡)	文献
24次	妻木山地区 松尾頭地区	試掘調査	H21.10. 5 ~ H21.12. 2	73.00	鳥取県教育委員会 2011b
25次	仙谷地区	重点調査	H22. 4.16 ~ H22. 9.30	244.00	鳥取県教育委員会 2014/2017a
26次	仙谷地区	重点調査	H23. 4.15 ~ H23. 9.30	152.50	鳥取県教育委員会 2017a
27次	仙谷地区	重点調査	H24. 4.19 ~ H24.10.29	248.00	鳥取県教育委員会 2014/2017a
28次	松尾頭地区	内容確認調査	H25. 5.20 ~ H25.12. 9	144.30	鳥取県教育委員会 2014
29次	仙谷地区	重点調査	H25. 9.10 ~ H25.12. 9	204.80	鳥取県教育委員会 2017a
30次	仙谷地区	重点調査	H26. 7. 1 ~ H26.10. 8	832.00	鳥取県教育委員会 2017a
31次	仙谷地区	重点調査	H27. 7. 6 ~ H27.10.17		鳥取県教育委員会 2017a
32次	妻木山地区谷部	内容確認調査	H28.10. 3 ~ H28.12. 6	100.00	鳥取県教育委員会 2017b
				延べ調査面積	197,083.25

妻木晩田遺跡発掘調査関係文献

- 大山町教育委員会 1978 『高麗地域遺跡群松尾頭遺跡発掘調査報告書』
- 大山町教育委員会 1979 『松尾頭遺跡・Ⅱ』大山町埋蔵文化財発掘調査報告書 6
- 大山町教育委員会 1993 『大山町内遺跡発掘調査報告書 豊房所在遺跡・妻木新山遺跡』大山町埋蔵文化財発掘調査報告書 12
- 大山町教育委員会 1994a 『大山町内遺跡発掘調査報告書 妻木新山遺跡・妻木山遺跡・松尾頭遺跡 松尾城跡』大山町埋蔵文化財発掘調査報告書 13
- 大山町教育委員会 1994b 『妻木山遺跡群試掘調査報告書 妻木新山遺跡・妻木山遺跡』大山町埋蔵文化財発掘調査報告書 14
- 淀江町教育委員会 1995 『淀江町内遺跡Ⅴ』淀江町埋蔵文化財調査報告書 34
- 淀江町教育委員会 1997 『妻木晩田遺跡 小真石清水地区発掘調査報告書』淀江町埋蔵文化財調査報告書 42
- 大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・大山町教育委員会 2000 『妻木晩田遺跡発掘調査報告書Ⅰ～Ⅳ』大山町埋蔵文化財発掘調査報告書 17
- 淀江町教育委員会 2000 『妻木晩田遺跡 洞ノ原地区・晩田山古墳群発掘調査報告書』淀江町埋蔵文化財調査報告書 50
- 鳥取県教育委員会 2001 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2000』
- 鳥取県教育委員会 2002 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2001』
- 鳥取県教育委員会 2003a 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2002』
- 鳥取県教育委員会 2003b 『史跡妻木晩田遺跡第4次発掘調査報告書—洞ノ原地区西側丘陵の発掘調査—』史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書第Ⅰ集
- 鳥取県教育委員会 2004 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2003』
- 鳥取県教育委員会 2005 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2004』
- 鳥取県教育委員会 2006a 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2005』
- 鳥取県教育委員会 2006b 『史跡妻木晩田遺跡妻木山地区発掘調査報告書』史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書第Ⅱ集
- 鳥取県教育委員会 2007 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2006』
- 鳥取県教育委員会 2008a 『史跡妻木晩田遺跡松尾頭地区発掘調査報告書』史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書第Ⅲ集
- 鳥取県教育委員会 2008b 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2007』
- 鳥取県教育委員会 2009 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2008』
- 鳥取県教育委員会 2011a 『史跡妻木晩田遺跡松尾頭地区発掘調査報告書』史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書第Ⅳ集
- 鳥取県教育委員会 2011b 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2010』
- 鳥取県教育委員会 2012 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2011』
- 鳥取県教育委員会 2013 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2012』
- 鳥取県教育委員会 2014 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2013』
- 鳥取県教育委員会 2015 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2014』
- 鳥取県教育委員会 2016 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2015』
- 鳥取県教育委員会 2017a 『史跡妻木晩田遺跡仙谷墳丘墓群発掘調査報告書』史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書第Ⅴ集 (本書)
- 鳥取県教育委員会 2017b 『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報 2016』

第3節 妻木晩田遺跡発掘調査委員会の記録

妻木晩田遺跡発掘調査委員会（以下、委員会）は、鳥取県附属機関条例（平成25年10月11日公布鳥取県条例第53号）で定める鳥取県教育委員会の附属機関である。委員会は、平成11年度に「妻木晩田遺跡を解明するための学術的な発掘調査の方法や計画について、専門的に検討すること」を目的に設置された。組織の改組に伴い、平成16年4月21日付け、平成17年3月23日付け、平成25年10月11日付けで運営要綱を一部改正しており、平成27年度には委員5名のうち2名が交代し、新体制となった。

なお、平成28年度に、妻木晩田遺跡発掘調査委員会は、「妻木晩田遺跡・青谷上寺地遺跡の学術的な発掘調査の方法・計画及び整備活用の方法・計画に関する事項」を検討することを目的に、青谷上寺地遺跡発掘調査委員会と統合、再編され、新たに「とっとり弥生の王国調査整備活用委員会」が発足した。同委員会を構成する調査研究部会の妻木晩田遺跡担当には、旧「妻木晩田遺跡発掘調査委員会」からの4名に新たに1名を加えた5名が委嘱され、調査の指導・助言にあたっている。

第19回妻木晩田遺跡発掘調査委員会

開催日時 平成22年8月25日（水）

場 所 鳥取県立むきばんだ史跡公園

出席者 発掘調査委員会 渡邊貞幸（委員長）、酒井龍一（副委員長）、高島忠平（委員）、和田晴吾（委員）、深澤芳樹（委員）

米子市教育委員会 岩田文章（主任） 大山町教育委員会 西尾秀道（主幹）

事務局 三嶋雅之（所長）、小口英一郎（調査整備係長）、玉木秀幸、酒井雅代、岡野雅則（以上、調査整備係文化財主事）、大野哲二（文化財課歴史遺産室文化財主事）

内 容 第25次発掘調査（仙谷地区東側丘陵）について、現地にて調査経過の報告を行なった。委員から、段状地形および墳丘状の高まりについて、遺構の有無を明確にするように指導を受け、調査方法について提案があった。委員会では平成23年度の調査計画について議論がなされた。その後事務局で検討し、後日、修正案を各委員に提示し了承を得た。

第20回妻木晩田遺跡発掘調査委員会

開催日時 平成23年9月13日（火）

場 所 鳥取県立むきばんだ史跡公園

出席者 発掘調査委員会 渡邊貞幸（委員長）、酒井龍一（副委員長）、和田晴吾（委員）、深澤芳樹（委員）
大山町教育委員会 西尾秀道（課長補佐）

事務局 三嶋雅之（所長）、小口英一郎（調査整備係長）、陶澤真梨子、岡野雅則（以上、調査整備係文化財主事）、大川泰広（文化財課歴史遺産室文化財主事）

内 容 第26次発掘調査（仙谷地区西側丘陵）について、現地にて調査経過の報告を行なった。段状地形について検討がなされ、委員からは「平坦面1」「平坦面2」と呼称される遺構について、時期は不明ながらも墳墓の可能性があることが指摘された。また、墳墓の調査方法について指導を受けた。委員会では、平成24年度の調査計画について議論がなされ、

第26次発掘調査の成果を受け、仙谷1号墓の調査に加えて平坦面1の調査も継続すべきとの意見がだされた。変更案について事務局で再度検討し、後日、仙谷1号墓と平坦面1を調査対象とする修正案を各委員に個別に提示し了承を得た。

第21回妻木晩田遺跡発掘調査委員会

開催日時 平成24年10月3日(水)

場 所 鳥取県立むきばんだ史跡公園

出席者 発掘調査委員会 渡邊貞幸(委員長)、酒井龍一(副委員長)、高島忠平(委員)、和田晴吾(委員)、深澤芳樹(委員)

大山町教育委員会 西尾秀道(課長補佐)

事務局 中原斉(所長)、小口英一郎(調査整備係長)、陶澤真梨子、長尾かおり(以上、調査整備係文化財主事)、北浦弘人(文化財課歴史遺産室長)、岡野雅則(文化財課歴史遺産室文化財主事)

内 容 第27次発掘調査(仙谷1号墓、仙谷地区平坦面1)について、現地にて調査経過の報告を行なった。委員会では仙谷1号墓及び平坦面1の調査成果と課題について検討がなされ、平成25年度の調査計画について、重点調査の期間を延長し、仙谷墳丘墓群の調査は継続すべきか議論された。委員からは、仙谷墳丘墓群の調査を継続する場合は、仙谷1号墓の調査はおこなわず、平坦面1の調査を行うほうがよいとの意見が出された。その後、事務局で再度検討し、平坦面1の埋葬施設を調査の対象とする修正案を各委員に個別に提示し了承を得た。

第22回妻木晩田遺跡発掘調査委員会

開催日時 平成25年8月5日(月)

場 所 鳥取県立むきばんだ史跡公園

出席者 発掘調査委員会 渡邊貞幸(委員長)、酒井龍一(副委員長)、高島忠平(委員)、和田晴吾(委員)
米子市教育委員会 岩田文章(主幹) 大山町教育委員会 西尾秀道(課長補佐)

事務局 中原斉(所長)、濱田竜彦(調査整備係長)、陶澤真梨子、長尾かおり(以上、調査整備係文化財主事)、小口英一郎(文化財課歴史遺産室係長)

内 容 第28次内容確認調査(松尾頭1区・10区)について、調査経過を報告し、今後の調査方針について検討がなされた。また、第29次重点調査(仙谷地区平坦面1)について、調査計画の見直しを提案し、埋葬施設の調査を次年度に行うことが承認された。埋葬施設の調査方針について議論がなされ、委員からは将来の整備を見据えた調査計画をたてるべきとの意見が出された。

第23回妻木晩田遺跡発掘調査委員会

開催日時 平成25年11月27日(水)

場 所 鳥取県立むきばんだ史跡公園

出席者 発掘調査委員会 渡邊貞幸(委員長)、酒井龍一(副委員長)、和田晴吾(委員)、深澤芳樹(委員)

大山町教育委員会 西尾秀道（課長補佐）
事務局 中原斉（所長）、濱田竜彦（調査整備係長）、陶澤真梨子、長尾かおり（以上、調査整備係文化財主事）、小口英一郎（文化財課歴史遺産室係長）

内 容 第 28 次内容確認調査（松尾頭 1 区・10 区）・第 29 次重点調査（仙谷地区平坦面 1）について、現地にて調査成果を報告し、平坦面 1 の呼称を仙谷 8 号墓とすることが承認された。委員会では、平成 26 年度の発掘調査計画について議論がなされた。委員からは、仙谷 8 号墓の埋葬施設の調査は貴重な事例となるため、調査を映像や三次元測量で記録することが提案され、埋葬施設から人骨や副葬品が出土した場合の取り上げや保存処理について事前に体制を整えておくべきとの意見がだされた。また、取り外した蓋石などの復元と保護の方法についても検討がなされた。

第 24 回妻木晩田遺跡発掘調査委員会

開催日時 平成 26 年 8 月 7 日（木）
場 所 鳥取県立むきばんだ史跡公園
出席者 発掘調査委員会 渡邊貞幸（委員長）、酒井龍一（副委員長）、高島忠平（委員）、和田晴吾（委員）、深澤芳樹（委員）
大山町教育委員会 西尾秀道（課長補佐）
事務局 信組義彦（所長）、植木敏郎（次長）、濱田竜彦（調査整備係長）、長尾かおり、陶澤真梨子（以上、調査整備係文化財主事）、君嶋俊行（埋蔵文化財センター青谷上寺遺跡調査担当係長）、松井潔（文化財課歴史遺産室長）

内 容 第 30 次重点調査（仙谷 8 号墓）について、現地にて調査経過を報告し、トレンチで確認した墳裾の状況について、さらに面的な調査を実施し検討することが了承された。仙谷 8 号墓埋葬施設の調査について議論がなされ、北側から順に全ての蓋石を外し、全体を調査することを基本方針とすること、原則として、可能な限り埋葬施設築造の逆の順序で石材を取り外すことが決定した。

第 25 回妻木晩田遺跡発掘調査委員会

開催日時 平成 27 年 3 月 11 日（水）
場 所 鳥取県立むきばんだ史跡公園
出席者 発掘調査委員会 渡邊貞幸（委員長）、高島忠平（委員）、和田晴吾（委員）、深澤芳樹（委員）
文化庁 榎垣佳男（主任調査官）
大山町教育委員会 西尾秀道（室長）
事務局 信組義彦（所長）、植木敏郎（次長）、濱田竜彦（調査整備係長）、長尾かおり、陶澤真梨子（以上、調査整備係文化財主事）、君嶋俊行（埋蔵文化財センター青谷上寺遺跡調査担当係長）、松井潔（文化財課歴史遺産室長）

内 容 第 30 次重点調査（仙谷 8 号墓）について調査成果を報告し、棺底や出土人骨の調査について指導を受けた。また、報告書の記載に際し、埋葬施設と石材の用語などについて意見が交わされた。平成 28 年度の調査計画について、仙谷 8 号墓北側（平坦面 2）の面的

な調査と、仙谷8号墓埋葬施設の復元作業を行うことを提案し、承認された。埋葬施設の復元と埋め戻し方法については、今後の整備活用方針を見据えた方法を選択すべきとの意見が出された。また、文化庁からは、できる限り早い整備と公開を望むとの要望が出された。

第26回妻木晩田遺跡発掘調査委員会

開催日時 平成27年8月10日(月)

場 所 鳥取県立むきばんだ史跡公園

出席者 発掘調査委員会 渡邊貞幸(委員長)、和田晴吾(副委員長)、深澤芳樹(委員)、吉田広(委員)、佐々木由香(委員)

文化庁 欄亘田佳男(主任調査官)

米子市教育委員会 下高瑞哉(課長補佐) 大山町教育委員会 西尾秀道(室長)

事務局 信組義彦(所長)、植木敏郎(次長)、濱田竜彦(調査整備係長)、長尾かおり、井田智(以上、調査整備係文化財主事)、君嶋俊行(埋蔵文化財センター青谷上寺地遺跡調査担当係長)

内 容 第31次重点調査(仙谷8号墓北側(平坦面2))について、現地にて調査経過を報告し、集落最終期の墳墓の可能性があることから、平坦面2の呼称を仙谷9号墓とすることが承認された。委員からは、埋葬施設の有無と、仙谷8号墓と同9号墓の先後関係を再度検討するように指導を受けた。委員会では仙谷墳丘墓群の調査は区切りがついたとの意見で一致し、次の調査課題に移ることが承認された。また、次年度以降の発掘計画について、仙谷墳丘墓群の整備にかかる補足調査を含めた形で整理するように提案があった。

第27回妻木晩田遺跡発掘調査委員会

開催日時 平成28年2月19日(金)

場 所 鳥取県立むきばんだ史跡公園

出席者 発掘調査委員会 渡邊貞幸(委員長)、和田晴吾(副委員長)、吉田広(委員)、佐々木由香(委員)

米子市教育委員会 濱野浩美(学芸員) 大山町教育委員会 西尾秀道(室長)

事務局 信組義彦(所長)、植木敏郎(次長)、濱田竜彦(調査整備係長)、長尾かおり、岡田芳博(以上、調査整備係文化財主事)、君嶋俊行(埋蔵文化財センター青谷上寺地遺跡調査担当係長)

内 容 第31次重点調査(仙谷9号墓)の調査成果とあわせ、仙谷8号墓の埋葬施設の復元が完了したことを報告した。委員からは、埋葬施設や墳丘を保護し、整備が行われるまでしっかりと管理体制をとるように指導を受けた。平成28年度の調査計画について、妻木山地区谷部の内容確認調査を行うことを提案し、承認された。

第4節 妻木晩田遺跡発掘調査委員会・調査体制

1 妻木晩田遺跡発掘調査委員会

妻木晩田遺跡発掘調査委員会

平成23～26年度

委員長 渡邊貞幸（出雲弥生の森博物館館長）

副委員長 酒井龍一（奈良大学名誉教授）

委員 高島忠平（学校法人旭学園理事長）

和田晴吾（立命館大学特任教授）

深澤芳樹（独立行政法人国立文化財機構 奈良文化研究所客員研究員）

（職名は平成26年度時点のもの）

平成27年度

委員長 渡邊貞幸（出雲弥生の森博物館館長）

副委員長 和田晴吾（兵庫県立考古博物館館長）

委員 深澤芳樹（独立行政法人国立文化財機構 奈良文化研究所客員研究員）

吉田 広（愛媛大学ミュージアム准教授）

佐々木由香（株式会社パレオ・ラボ総括部長 / 昭和女子大学非常勤講師）

（職名は平成27年度時点のもの）

助言機関 文化庁文化財部記念物課、米子市教育委員会、大山町教育委員会

事務局 鳥取県立むきばんだ史跡公園

とっとり弥生の王国調査整備活用委員会 調査研究部会 妻木晩田遺跡担当

平成28年度

座長 渡邊貞幸（出雲弥生の森博物館館長）

副座長 和田晴吾（兵庫県立考古博物館館長）

委員 吉田 広（愛媛大学ミュージアム准教授）

佐々木由香（株式会社パレオ・ラボ総括部長 / 昭和女子大学非常勤講師）

李 素妍（鳥取大学准教授）（職名は平成28年度時点のもの）

助言機関 文化庁文化財部記念物課、米子市教育委員会、大山町教育委員会

事務局 鳥取県立むきばんだ史跡公園

2 調査主体

平成22年度

鳥取県立むきばんだ史跡公園

所長 三嶋 雅之

次長（兼総務係長） 竹内 友徳

総務係

主 事 西村 康平

調査整備係

係長	小口英一郎（総括）
文化財主事	玉木 秀幸（調査担当） 酒井 雅代（副査）
	岡野 雅則 宮本 寛之 湯原 敬雄

平成 23 年度

鳥取県立むきばんだ史跡公園

所長	三嶋 雅之
次長（兼総務係長）	竹内 友徳

総務係

主事	西村 康平
----	-------

調査整備係

係長	小口英一郎（総括）
文化財主事	陶澤真梨子（調査担当） 岡野 雅則（副査）
	湯原 敬雄 塚田 浩

平成 24 年度

鳥取県立むきばんだ史跡公園

所長	中原 斉
次長（兼総務係長）	竹内 友徳

総務係

主事	多田 和子
----	-------

調査整備係

係長	小口英一郎（総括）
文化財主事	陶澤真梨子（調査担当）
	足立 誠 塚田 浩 長尾かおり

平成 25 年度

鳥取県立むきばんだ史跡公園

所長	中原 斉
次長（兼総務係長）	植木 敏郎

総務係

主事	多田 和子
----	-------

調査整備係

係長	濱田 竜彦（総括）
文化財主事	陶澤真梨子（重点調査担当・内容確認調査副査）
	長尾かおり（内容確認調査担当・重点調査副査）
	足立 誠 塚田 浩

平成 26 年度

鳥取県立むきばんだ史跡公園

所 長	信組 義彦
次 長（兼総務係長）	植木 敏郎
総務係	
主 事	多田 和子
調査整備係	
係 長	濱田 竜彦（総括）
文化財主事	長尾かおり（調査担当） 陶澤真梨子（副査）
	塚田 浩 岡田 芳博
発掘調査支援業者	株式会社島田組 現場代理人 栗田 誠 支援調査員 高橋 徹

平成 27 年度

鳥取県立むきばんだ史跡公園

所 長	信組 義彦
次 長（兼総務係長）	植木 敏郎
総務係	
主 事	齊木 敦
調査整備係	
係 長	濱田 竜彦（総括）
文化財主事	長尾かおり（調査担当） 井田 智（副査）
	塚田 浩 岡田 芳博
主 事	齋藤 恵
発掘調査支援業者	株式会社島田組 現場代理人 栗田 誠 調査補助員 植野 良子

平成 28 年度（報告書作成）

鳥取県立むきばんだ史跡公園

所 長	信組 義彦
総務担当	
係 長	大塚 喜貴
主 事	齊木 敦
調査活用担当	
係 長	高尾 浩司（総括） 塚田 浩
文化財主事	長尾かおり（調査担当・報告書作成担当） 濱本 利幸（副査）
	潮 純一
主 事	齋藤 恵

第Ⅲ章 仙谷墳丘墓群 発掘調査の方法と経過

第1節 仙谷墳丘墓群の調査概要

仙谷墳丘墓群のある仙谷地区は、妻木晩田遺跡の北西端に位置し、東西にのびる丘陵から北側に派生した2つの丘陵からなる（第5図）。それらを便宜上、仙谷地区東側丘陵、仙谷地区西側丘陵と呼ぶ。仙谷地区西側丘陵は妻木新山地区（2区）から鞍部を挟むが同一丘陵上にあり、谷を挟んで南側は洞ノ原地区西側丘陵に面している。

仙谷地区東側丘陵では、第1次発掘調査において1区・2区の2つの調査区が設定され、後期中葉～終末期前半に築造された6基の墳丘墓が確認された。1区は北方向にのびる尾根の先端部にあたる。海への眺望が開けた場所にあり、眼前には島根半島や隠岐島を望むことができる。ここで確認された仙谷2・3・5号墓のうち、仙谷3号墓は仙谷墳丘墓群最古の墳丘墓である。この仙谷3号墓が尾根先端に築かれた後、尾根高所側へ連なるように、2号墓、5号墓の築造が続く。2区は、1区から南へのびる尾根がL字状に東方向に屈曲する部分にある。第1次調査では細い尾根上で仙谷4・6・7号墓が確認されている。2区はトレンチ調査にとどまっていたため墳丘墓の全容は不明だが、仙谷6・7号墓は後期中葉、4号墓は終末期前半に築造されたと考えられている。

仙谷地区西側丘陵は、試掘調査で発見された妻木晩田遺跡最大の四隅突出型墳丘墓・仙谷1号墓の保存が決定し、第1次調査区から除外された範囲である。今回の重点調査で新たに発見された仙谷8号墓・9号墓は、丘陵頂部に位置する仙谷1号墓から約25m北に下った緩斜面に位置する。区画溝を共有する仙谷8号墓と9号墓の築造時期は古墳時代前期前葉と推定され、当該期はこれまで妻木晩田遺跡内に墳丘墓は造られていないと考えられてきた時期である。今回の調査成果から、妻木晩田遺跡における弥生集落の最終段階には、仙谷墳丘墓群に墳丘墓が築造されていたことが明らかになった。

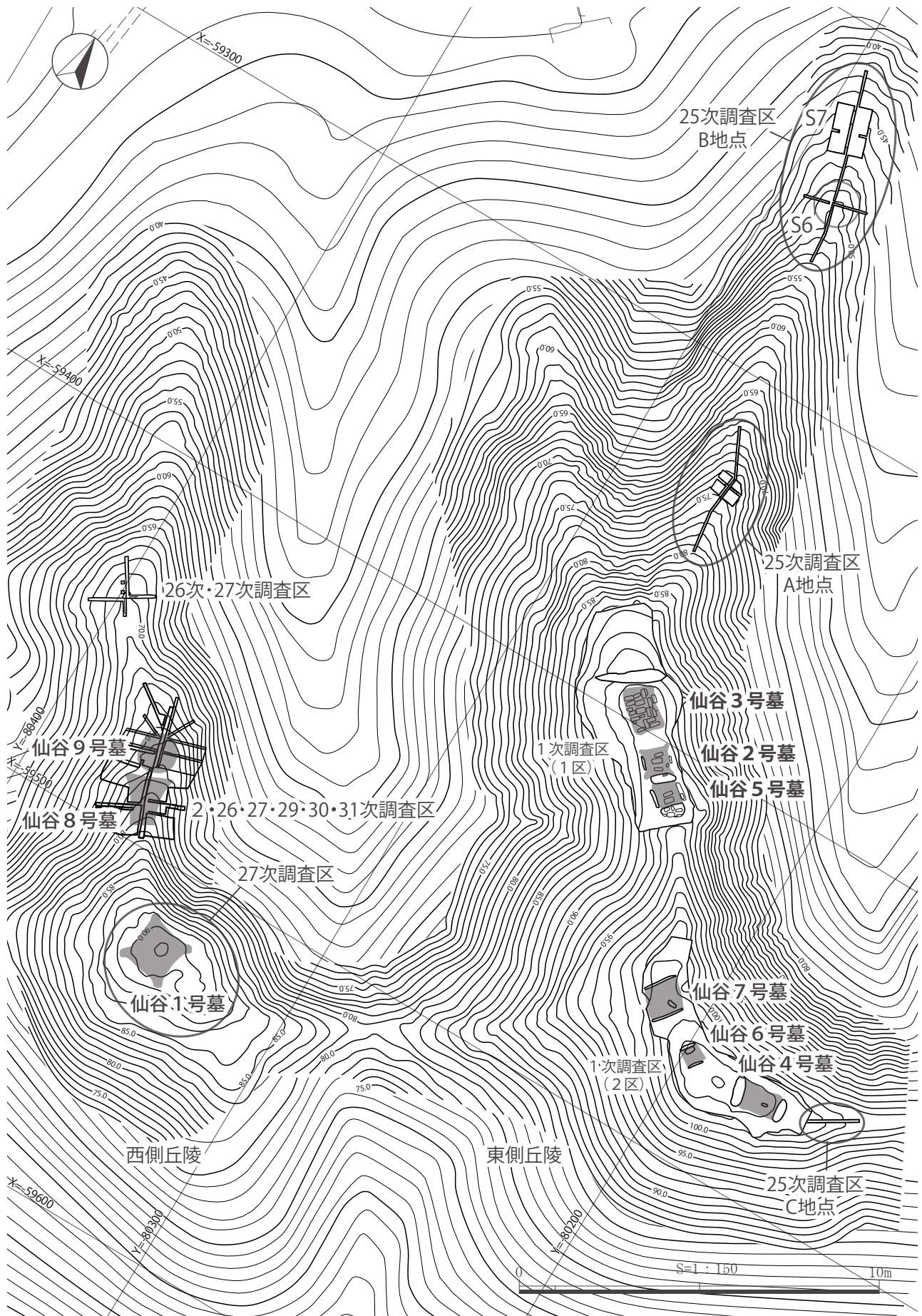
第2節 発掘調査区の設定

第Ⅱ章第2節で述べたとおり、長期計画第Ⅱ期は「墳墓域の実態解明」を調査課題としており、短期計画第1期では仙谷墳丘墓群を対象地とした発掘調査を実施した（第3表）。平成22年度は、仙谷地区東側丘陵における墓域の範囲確認を目的とし、事前の踏査と地形測量の結果から、1区北側で墳丘墓や土壇墓などが存在する可能性があるA地点・B地点の2ヶ所を調査区とした（第25次）。また、墓域の東側の範囲を確認するため、2区東側に調査区C地点を設定した。

平成23・24年度は、仙谷地区西側丘陵の墓域の範囲確認を目的とし、丘陵頂部から北

第3表 第Ⅱ期重点調査 仙谷墳丘墓群
調査年度と調査区一覧

年度	年次	調査区
平成22年度 (2010年)	25次	仙谷地区東側丘陵 A地点、B地点、C地点
平成23年度 (2011年)	26次	仙谷地区西側丘陵 平坦面1（仙谷8号墓）、 平坦面2（仙谷9号墓）、 平坦面3・4
平成24年度 (2012年)	27次	仙谷地区西側丘陵 仙谷1号墓、平坦面1（仙谷8号墓）、 平坦面2（仙谷9号墓）、平坦面4
平成25年度 (2013年)	29次	仙谷地区西側丘陵 (仙谷8号墓)
平成26年度 (2014年)	30次	仙谷地区西側丘陵 (仙谷8号墓)
平成27年度 (2015年)	31次	仙谷地区西側丘陵 (仙谷8号墓、仙谷9号墓)



第5図 仙谷墳丘墓群 調査区位置図

側にむかう緩斜面地に認められた段状地形4ヶ所を調査区とした（第26・27次）。また、仙谷1号墓及び周囲の状況を確認するため、1号墓が立地する丘陵頂部にも調査区を設定した（第27次）。

平成24年度時点での発掘調査年次計画では、長期計画第Ⅱ期における仙谷墳丘墓群を対象とした重点調査は当該年度で終了する予定となっていた。しかし、調査成果を整理・検討するなかで、仙谷1号墓に匹敵する規模をもつ墳丘墓である仙谷8号墓の構造と築造時期を明らかにすることが、調査課題の解決に不可欠であるとの結論に至った。そこで、平成25～27年度までの3年間を、短期計画第1期の延長期間とし、引き続き仙谷8号墓及びその周辺の調査を継続することになった（第29～31次）。また、仙谷8号墓では、埋葬施設の構造及び副葬品の有無を確認するために、埋葬施設内部の調査を行った。

第3節 発掘調査の記録

遺物・遺構の記録

墓域の範囲確認を目的としていたことから、段状の地形や盛土状の地形に注意し、基盤層の確認、遺構の分布、遺物の出土位置などに留意して記録をとった。また、墳丘墓の調査では、構築手順及び築造時期を明らかにできるように、墳丘墓及び周辺の地形、墳丘盛土の確認、遺物の出土状況に特に留意して記録をとった。

遺物はトータルステーションを用いて出土位置を国土座標系で全て記録することとしたが、仙谷1号墓における試掘調査や仙谷8号墓・9号墓における第2次調査のトレンチを再発掘した際に埋め戻し土から発見された遺物など、出土位置が不明瞭なものについては一括して取り上げた。時期が特定できる特徴的な遺物については、出土状況を写真でも記録した。

遺構及びトレンチ調査の記録は、主にトータルステーションを用いたが、墳丘墓の調査では、高精度な地形の記録を目的とし、3次元レーザーによる地形測量を実施した。なお、結果的に調査期間が5ヶ年にわたった仙谷8号墓・9号墓の調査では、同一の遺構を対象とした平面図・断面図が複数存在し、記録方法も手測りによるもの、写真測量によるもの、3次元測量によるものが混在する。そこで、調査終了後に、それぞれ関連する図面を整理、統合して編集した後、デジタルトレースを行い、最終的な報告図を作成した。

写真による記録

第25～27・29次調査では、写真の撮影は中型（6×7）一眼レフカメラ、小型（35mm）一眼レフカメラを基本とし、デジタル一眼レフカメラ（センサーサイズ23.6×15.8mm、有効画素数1230万画素）を併用した。デジタル一眼レフカメラによる撮影は、JPEG形式で画像データを取得し、保存した。第30・31次調査では、中型（6×7）一眼レフカメラ、フルサイズのデジタルカメラ（センサーサイズ約36×24mmフルサイズ、有効画素数2230万画素以上）を基本とし、フルサイズのデジタルカメラによる撮影は、RAW・JPEG形式で画像データを取得し、保存した。なお、中型及び小型一眼レフカメラには、リバーサルフィルム（富士フィルム社プロビア100F）、白黒フィルム（富士フィルム社ネオパン100ACROS）を使用した。記録対象の内容によっては、中型カメラでの撮影を省略したことがある。また、メモ的な写真の撮影には、デジタル一眼レフカメラを用いた。

第4節 第25・26・27次調査－仙谷墳丘墓群確認調査・仙谷1号墓

1 第25次調査－平成22年度の調査－

平成21年1月21日に開催した第18回発掘調査委員会において、第25次調査では仙谷東側丘陵を調査対象とし、仙谷墳丘墓群の分布域の確認を目的としたトレンチ調査を行うことが承認された。

平成22年4月16日から現地作業に着手した。はじめに調査前地形測量を行い、尾根上に段状地形が確認されたA地点及びB地点にトレンチを設定した(第5図)。6月9日にB地点から掘り下げを開始し、段状地形S7で時期不明の溝状遺構を検出し、弥生時代中期前葉と判断される土器が出土した。A地点では4箇所(3)の段状地形を通るように尾根筋を縦断するトレンチを設定したが、遺構や遺物は確認されず自然地形と判断された。仙谷4号墓の東側はC地点とし、7月28・29日にトレンチ調査を行ったが遺構や遺物は検出されなかった。

B地点のS6は、地形が墳丘状に盛り上がり南側に溝状の落ち込みが確認されていたことから古墳の存在が想定された範囲である。7月7日に渡邊委員長、酒井副委員長、7月20日に深澤委員による現地指導を受けた。その後、調査を進め墳丘南側に溝状遺構を検出した。8月25日に開催された第19回発掘調査委員会で調査経過について報告し、S6についてトレンチを基盤層まで断ち割って堆積状況を明らかにし、盛土の有無を確認することが決定した。調査の結果、旧表土とみられる黒色土の上に盛土と推定される堆積を確認した。盛土や溝から遺物は出土せず、埋葬施設は検出されなかったが、平面形が円形を呈すこと、仙谷墳丘墓群の墳丘墓には部分的な盛土しか認められないことなどから円墳の可能性があると判断された(鳥取県教育委員会2010)。9月15日に渡邊委員長、酒井副委員長に改めて現地指導を受け、発掘調査委員会での指摘事項について経過を報告した。9月2日に調査後の空撮を行った後、9月21日に岡田昭明氏(鳥取大学名誉教授)による現地指導を受けた。9月28日からトレンチの埋め戻し作業を開始し、9月30日に現地作業を終了した。

2 第26次調査－平成23年度の調査－

平成22年8月25日に開催した第19回発掘調査委員会において、第26次調査では仙谷地区西側丘陵を調査対象とし、仙谷墳丘墓群の分布域の確認と仙谷1号墓の内容調査を行うことが承認された。その後、平成23年度に事務局の体制が変更になったことを受けて調査計画を見直し、仙谷1号墓の調査は延期することになった。

平成23年4月15日から調査対象地の伐採作業を開始した。5月17日から現地での調査前測量を行った結果、西側丘陵の尾根上に段状地形を5箇所確認し、このうち、古墳の可能性のあるものを除く4箇所(4)の確認調査を行うこととした(平坦面1～4)。なお、平坦面1・2(仙谷8・9号墓)の調査については次節にまとめている。

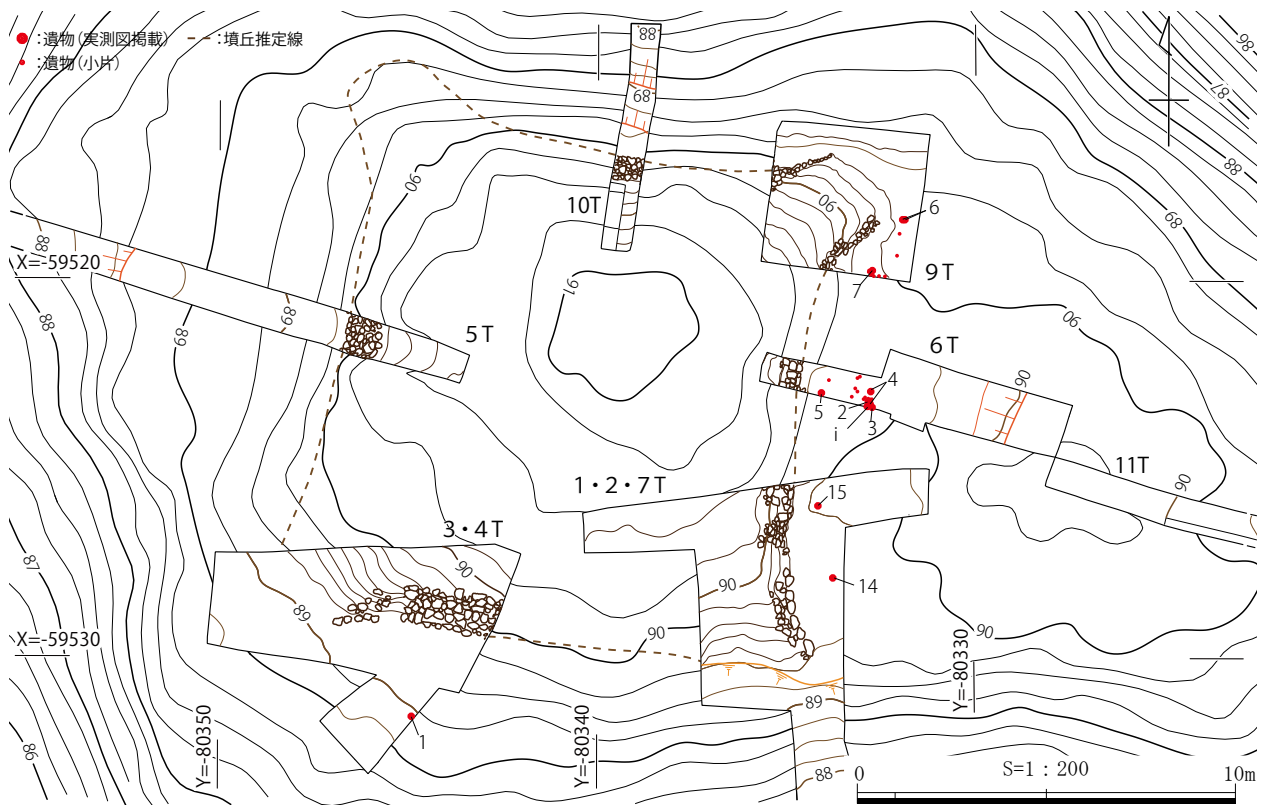
平坦面3では7月6日から作業を開始し、細い尾根を縦断するようにトレンチを設定したが、遺構や遺物は確認されず自然地形と判断された。平坦面4では墳墓を想定しトレンチを十字に設定した。7月28日に掘り下げを開始してすぐに溝状遺構を検出し墳丘墓に伴う区画溝の可能性を考えたが、埋葬施設や遺物は出土されなかった。9月13日に第20回発掘調査委員会を開催し、調査経過を報告した。9月25日に空撮を行った後、トレンチを土嚢及び廃土で埋め戻し、現地作業を9月30日に終了した。

3 第27次調査－平成24年度の調査－

平成23年9月13日に開催した第20回発掘調査委員会において、第27次調査では仙谷1号墓の調査を行うことが承認された。また、平坦面4についても補足調査を行うことになり4月19日から現地作業に着手した。

平坦面4では第26次調査で検出した溝の端部を検出し、溝が尾根に直交し直線的に延びていることが明らかになった。埋葬施設は検出されず、遺物も出土しなかったため墳丘墓と特定できなかった。

仙谷1号墓では、はじめに試掘調査のトレンチの再発掘を進めた。次にこれまで未確認であった北側墳裾及び北東隅部を確認するためのトレンチ（9T・10T）を追加した。7月30日に渡邊委員長・酒井副委員長・和田委員・深澤委員による現地指導を受け、転落石と判断される石材は取り外し、原位置を保つ貼石を検出すること、10Tは盛土の有無を確認するために墳丘方向に拡張すること、墓壙を検出した場合は掘り下げをそこで止め調査を終えることが決定した。調査の結果、仙谷1号墓の規模は突出部を除く墳丘規模が東西12.5m、南北13mであることを確認し、貼石については南・西側



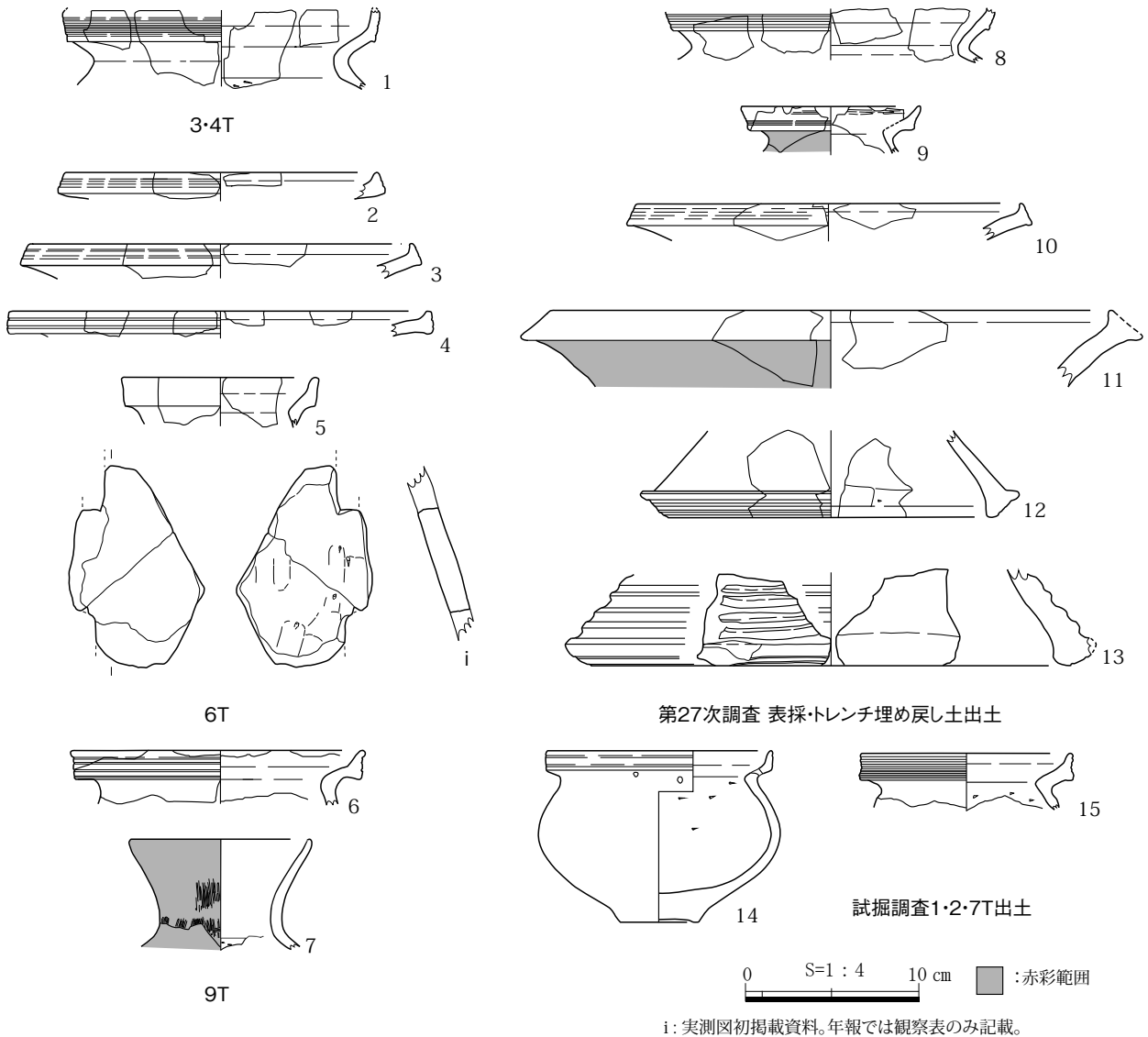
第6図 仙谷1号墓 調査範囲（試掘調査・第27次調査）



第7図 仙谷1号墓 調査状況 東から



第8図 仙谷1号墓 貼石検出作業風景



第9図 仙谷1号墓 出土土器（試掘調査・第27次調査）

と北・東側では大きさや裾部の列石の有無などに違いがあることを確認できた。9Tでは1号墓北東隅部の突出部先端の状況を確認し、貼石や列石は認められないものの流出した状況がうかがえたため後世に失われた可能性もある。未調査である北西隅部については、表土上からピンポールをさし込み裾部に貼石が続く状況が確認されたが先端部に石は認められなかった。10Tでは墳丘に盛土を施していることが明らかになり、埋葬施設の可能性がある落ち込みの一部を検出した時点で調査を終了した。9Tでは北東側の突出部の検出にとどめ調査を終えた。

また、仙谷1号墓東側のマウンド状地形及び南～東側に広がるテラス状地形について性格を確認するために11T・12Tを設定したが、遺構や遺物は検出されなかった。

10月3日に第21回発掘調査委員会を行い、調査経過について報告した。10月13日に発掘調査現地説明会を開催し、70名の参加者があった。10月16日に空撮を行った後、トレンチを土嚢及び廃土で埋め戻し、現地作業を10月29日に終了した。なお、第25次、第27次調査の出土遺物については既に妻木晩田遺跡発掘調査研究年報2014（鳥取県教育委員会2015）にて報告しているが、出土位置図及び土器の実測図を本書に再掲する（第7・9図）。遺物についての詳細は年報を参照されたい。